

論文

学習指導要領改訂を踏まえた効果的なグランドデザインに関する検証

加藤 千景・尾碕 眞・吉田 聡

キーワード

ビジネス教育、学習指導要領、グランドデザイン、学校教育全体構想図

1. はじめに

現在、高等学校における専門学科では卒業後の就職率が 50% を超えており、ここ数年は概ね上昇傾向にあるため、卒業後すぐに就職する生徒に対応した教育の重要性が高いことが指摘されている。

実際、学校教育においては小学校から中学校にて令和 2（2020）年度に学習指導要領が改訂となったほか、高等学校においても令和 4（2022）年度に改訂となった。具体的には、経済のサービス化・グローバル化、ICT の急速な進展、持続可能な社会の構築に対応した科目編成に改訂がなされている。

社会で必要とされるビジネスの知識の取得を目指す学科としては商業科や総合学科などがあるが、そこでは観光ビジネスを新設するとともに、従来のビジネス実務をビジネス・コミュニケーションに再構成した。また、普通科においてもアクティブラーニングを重視した総合的な学習の時間を総合的な探求の時間と改訂し、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すこととなり、これからの時代においてますます重要な役割を果たすことがわかる。

また、生徒や学校、地域の実態、学科の特色に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、学校設定科目を設けることができるようになっており、学校における特色ある教育、特色ある学校づくりを進めるしくみの一つとして、有効に活用されることが期待されている。

このような状況を受け、学校現場においては教育のグランドデザインを定めて生徒指導やキャリア教育、課外活動などについても時代の変遷に応じて内容の見直しを含めた検討を行うことが望まれており、その効果についても常に検証を行っていく必要がある。

これまで、筆者らは商業教育の現状を詳細に分析するとともに、商業教育の変遷から今後の展望について考察してきた。また、グランドデザインが専門教育やキャリア教育に対して一定の効果が期待できることも示してきた。そのうえで、グランドデザインの効果から見る生徒の学習満足度や達成度などについても検証を行い、学年ごとの満足度の変化や課外活動と学習効果との相関関係などについての検証を行ってきた。

本論文ではさらに、愛知県立岡崎商業高等学校にてグランドデザイン設定から3年経過したことを受け、継続的に行ってきた3年間の時系列データを検証し、高校生活3年間における生徒の成長度について考察を行う。そして、改訂後の新しい学習指導要領における授業が実施されて1年経過したことを受け、1年次終了時における生徒の学習到達度やグランドデザインとの相関などについても検証する。

本論文の執筆にあたっては、1章、4章および6章については吉田聡、2章1節から4節1項については尾碕眞、2章4節2項、3章、および5章については加藤千景がそれぞれ担当した。

2. 新学習指導要領におけるビジネス教育の概要

新高等学校学習指導要領が平成30（2018）年3月30日告示され、現在、順次履修がなされている。そこで、ビジネス教育の実施事例として、令和4年度の入学生から順次履修している愛知県立岡崎商業高等学校のカリキュラムを見ることにする。

表2-1によれば、1年生は全員共通商業科であり、共通科目17単位、商業科目12単位の履修となる。共通科目は、現代の国語2単位、言語文化2単位、公共2単位、数学Ⅰ3単位、体育2単位、保健1単位、芸術2単位、英語コミュニケーション3単位であり、商業科目はビジネス基礎3単位、簿記4単位、情報処理4単位、岡崎学（学校設定科目）1単位である。

ところで、学習指導要領改訂により簿記は改定前2～5単位から2～4単位に減少した。

よって、簿記学習の重心が変容したことから、教科書1冊を1年で終了することが困難ともいえる。学校設定科目岡崎学は地域に根差した職業人育成視点といえよう。

2年生はグローバルビジネス科、会計ビジネス科、ITビジネス科に分かれる。さらに、グローバルビジネス科はデュアルコースとグローバルコースに分かれる。学科共通科目15単位、選択科目2単位、それぞれの学科とコースごとに学科科目12単位である。共通科目は論理国語2単位、歴史総合2単位、数学Ⅱ2単位、科学と人間生活2単位、体育2単位、保健1単位、コミュニケーション英語Ⅱ2単位、家庭総合2単位である。選択科目は全て2単位であり、選択科目の共通科目に属するのは、文学国語、数学A、論理・表現Ⅰであり、専門科目はビジネス・コミュニケーション、マーケティング、原価計算、プログラミングである。学科科目は学科およびコースにより異なり、グローバルビジネス科デュアルコースではマーケティング2単位、商品開発と流通2単位が、グローバルコースでは論理・表現Ⅰ2単位、ビジネス・コミュニケーション2単位であり、両コース共通で財務会計Ⅰ4単位、原価計算4単位となっている。会計ビジネス科は財務会計Ⅰ4単位、原価計算4単位、ソフトウェア活用4単位である。IT

表 2-1 令和 5 年度入学生カリキュラム表

時間数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	学科	共通科目(17)															商業科目(12)										その他				
	コース	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	体育	保健	芸術	英語コミュニケーションⅠ	ビジネス基礎	簿記	情報処理	岡崎学	LT																	
2年	学科	共通科目(15)										選択科目(2)	学科科目(12)							その他											
	コース	グローバルビジネス	デュアル	グローバル	論理国語	歴史総合	数学Ⅱ	科学と人間生活	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	家庭総合	文学国語	数学A	マーケティング	商品開発と流通	財務会計Ⅰ	原価計算	その他												
	コース	会計ビジネス	デュアル	グローバル	論理国語	歴史総合	数学Ⅱ	科学と人間生活	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	家庭総合	論理・表現Ⅰ	ビジネス・コミュニケーション	マーケティング	財務会計Ⅰ	原価計算	ソフトウェア活用	その他												
	コース	ITビジネス	デュアル	グローバル	論理国語	歴史総合	数学Ⅱ	科学と人間生活	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	家庭総合	原価計算	マーケティング	ソフトウェア活用	プログラミング	IT概論	その他													
3年	学科	共通科目(16)										選択科目(2)	学科科目(11)							その他											
	コース	グローバルビジネス	デュアル	グローバル	論理国語	地理総合	数学Ⅱ	生物基礎	体育	英語コミュニケーションⅡ	家庭総合	文学国語	数学A	課題研究	総合実践	ソフトウェア活用	インターンシップ	その他													
	コース	会計ビジネス	デュアル	グローバル	論理国語	地理総合	数学Ⅱ	生物基礎	体育	英語コミュニケーションⅡ	家庭総合	数学B	論理・表現Ⅱ	総合実践	課題研究	ビジネス・マネジメント	ソフトウェア活用	ソフトウェア活用	その他												
	コース	ITビジネス	デュアル	グローバル	論理国語	地理総合	数学Ⅱ	生物基礎	体育	英語コミュニケーションⅡ	家庭総合	化学基礎	課題研究	総合実践	財務会計Ⅱ	ソフトウェア活用	ソフトウェア活用	ソフトウェア活用	その他												

出所：愛知県立岡崎商業高校、令和 5 年入学生の教育課程。

<https://okazaki-ch.aichi-c.jp/cms/page-61.html> 2023 年 8 月 1 日閲覧。

ビジネス科はマーケティング 2 単位、ソフトウェア活用 3 単位、プログラミング 4 単位、および、学校設定科目の IT 概論 3 単位である。

3 年生は 2 年生と同様な学科、コース編成である。学科共通科目 16 単位、選択科目 2 単位、それぞれの学科とコースごとの学科科目 11 単位である。共通科目は論理国語 2 単位、地理総合 2 単位、数学Ⅱ 2 単位、生物基礎 2 単位、体育 3 単位、コミュニケーション英語Ⅱ 2 単位、家庭総合 2 単位である。選択科目は 2 年次同様、全て 2 単位である。選択科目の共通科目に属するのは、文学国語、数学 A、数学 B、論理・表現Ⅱ、化学基礎であり、専門科目は観光ビジネス、ビジネス法規、原価計算、プログラミング、および学校設定科目の中国語である。ただし、選択科目のうち数学 B は 2 年次で数学 A を修得していること、論理・表現Ⅱは 2 年次で論理・表現Ⅰを修得していることを条件に選択できることにしている。また、原価計算、プログラミングは 2 年次からの継続受講科目として選択科目を位置付け、3 年次のみの選択はできない。一方、文学国語、数学 A は単年度受講科目として位置づけているため、継続して選択できない。学科科目は学科およびコースにより異なり、グローバルビジネス科デュアルコースでは課題研究 3 単位、総合実践 3 単位、ソフトウェア活用 2 単位、および学校設定科目のインターンシップ 3 単位である。グローバルコースでは論理・表現Ⅱまたは総合実践 2 単位、課題研究 3 単位、ビジネス・マネジメント 2 単位、グローバル経済または観光ビジネス 2 単位、ソフトウェア活用 2 単位である。会計ビジネス科は課題研究 3 単位、総合実践 3 単位、財務会計Ⅱ 3 単位、ネットワーク活用または管理会計 2 単位である。IT ビジネス科は課題研究 3 単位、総合実践 3 単位、ネットワーク活用 3 単位、ネットワーク管理 2 単位である。

上記から、当該カリキュラムは岡崎地域の特性と商業高等学校の教育を考慮して、科目を選択設置し、生徒の学べる環境を構築しているといえよう。つまり、共通する各教科科目を配置し、さらに、各学科に共通する各教科の科目も配置し、選択科目の特色を創出し、学科別の専門性を学べる科目を置いている。そして、学校設定科目は4科目設置され、1年次岡崎学は地域の事を学び、自ら研修し、地元愛を形成するものと思われる。また、2年次のIT概論はハードウェア、ソフトウェア等に加え企業、ビジネス観点からITについて学ぶことが出来る。さらに学科の特長を生かした3年次科目のインターンシップ、グローバル人材育成を目指した中国語を学習することを前提とした教育課程となっている。

2. 1 ビジネス教育における共通科目

学校教育法施行規則第83条（平成30年、文部省令第27号）においては、各学科に共通する各教科として、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報、理数、及び総合的な探求の時間、並びに特別活動の教育課程を編成することとしている。そこで、共通科目と総合的な探求の時間について以下、文部科学省高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説に従って科目の性格と目標を要約して見ていくものとする。

1、国語

国語の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。(3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。今回の改訂では、他教科等と同様に、国語科において育成を目指す資質・能力を知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の三つの柱で整理し、それぞれに整理された目標を(1)、(2)、(3)に位置付けている。以下国語科の科目を見ていきたい。

(1) 現代の国語

1、この科目は、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成に主眼を置き、全ての生徒に履修させる共通必修科目として新設した。小学校及び中学校国語科と密接に関連し、その内容を発展させ、総合的な言語能力を育成する科目として、選択科目や他の教科・科目等の学習の基盤、とりわけ言語活動の充実に資する国語の資質・能力、社会人として生活するために必要な国語の資質・能力の基礎を確実に身に付けることをねらいとしている。

2、目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像し

たりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(2) 言語文化

1、この科目は、急速なグローバル化が進展するこれからの社会においては、異なる国や文化に属する人々との関わりが日常的になってくる。このような社会にあっては、国際社会に対する理解を深めるとともに、自らのアイデンティティーを見極め、我が国の一員としての責任と自覚を深めることが重要であり、先人が築き上げてきた伝統と文化を尊重し、豊かな感性や情緒を養い、我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を活用する資質・能力の育成が必要である。言語文化は、このことを踏まえ、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼を置き、全ての生徒に履修させる共通必修科目として新設した。小学校及び中学校国語科と密接に関連し、その内容を発展させ、総合的な言語能力を育成する科目として、選択科目や他の教科・科目等の学習の基盤、とりわけ我が国の言語文化の担い手としての自覚を涵養し、社会人として生涯にわたって生活するために必要な国語の資質・能力の基礎を確実に身に付けることをねらいとしている。

2、目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(3) 論理国語

1、この科目は、新たに置いた選択科目である。共通必修科目である現代の国語及び言語文化により育成された資質・能力を基盤とし、主として思考力・判断力・表現力等の創造的・論理的思考の側面の力を育成する科目として、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力の育成を重視している。この科目では、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、根拠や論拠の吟味を重ねたり文章全体の論理の明晰さを確かめたりして論理的な文章や実用的な文章を書く指導事項、資料との関係を把握したり、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討したりして論理的な文章や実用的な文章を読む指導事項を設けるとともに、課題を自ら設定して探究する指導事項を設けている。

2、目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の

知識や技能を身に付けるようにする。(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(4) 文学国語

1、この科目は、新たに置いた選択科目である。共通必修科目である現代の国語及び言語文化により育成された資質・能力を基盤とし、主として思考力、判断力、表現力等の感性・情緒の側面の力を育成する科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視している。この科目では、読み手の関心が得られるような、独創的な文学的な文章を創作するなどの指導事項、文学的な文章について評価したりその解釈の多様性について考察したりして自分のものの見方、感じ方、考え方を深めるなどの指導事項を設けるとともに、課題を自ら設定して探究する指導事項を設けている。

2、目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(5) 国語表現

1、この科目は、グローバル化、情報化が進展し、価値観が多様化している中、人々の生活環境、言語環境がこれまでとは比較にならないほど急速に変化し、社会生活もますます多様になってきている。その中であって、様々な情報を適切に判断し取捨選択する力や、筋道立てて物事について考える力、豊かな発想の基となる創造する力などを身に付けることが一層求められるようになり、その基盤となる、言語により理解し、思考し、表現する能力を確実に身に付ける必要性がますます高まっている。とりわけ自らの思いや考えを表現し、他者とのコミュニケーションを図る資質・能力を高めることは、これからの社会に生きていくためには必要不可欠なことである。語表現は、共通必修科目により育成された資質・能力を基盤とし、主として思考力、判断力、表現力等の他者とのコミュニケーションの側面の力を育成する科目として、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う資質・能力の育成を重視して新設した選択科目である。

2、目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の

知識や技能を身に付けるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

(6) 古典探究

1、この科目は、時代がいかに変わろうとも普遍的な教養があり、かつてはその教養の多くが古典などを通じて得られてきた。これらの教養は、先人が様々な困難に直面する中で、時代を越えた知として蓄積されてきたものであり、そのようにして古典は文化と深く結び付き、文化の継承と創造に欠くことができないものとなってきた。国際化や情報化の急速な進展に伴って、未来がますます予測困難なものになりつつある中、社会でよりよく生きるためには、我が国の文化や伝統に裏付けられた教養としての古典の価値を再認識し、自己の在り方生き方を見つめ直す契機とすることが重要である。古典探究は、このことを踏まえ、共通必修科目言語文化により育成された資質・能力のうち、伝統的な言語文化に関する理解をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とし、古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視して新設した選択科目である。

2、目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2、地理歴史

地理歴史の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に

説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。教科目標は、この部分は、地理歴史科で育成を目指す目標のうち柱書として示された箇所であり、以降示された、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等という、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った目標とともに、従前の目標の趣旨を継承するものとなっている。以下、地理歴史の科目を見ていきたい。

(1) 地理総合

1、この科目は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数2単位の必修科目である。持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目として、今回の改訂において新たに設置された。

2、目標は、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

(2) 地理探究

1、この科目は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数3単位の選択科目である。必修科目である地理総合の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する科目として、今回の改訂において新たに設置された。

地理総合の学習において働かせ、鍛えてきた社会的事象の地理的な見方・考え方を、引き続き地理探究における主体的・対話的で深い学びを通して、さらに働かせ、鍛えていけるよう内容や方法を工夫している。現代世界や我が国が抱える諸課題について、主に主題的な方法を基にして学習できるようにしているのも、そうした点を踏まえたものである。

2、目標は、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

(3) 歴史総合

1、この科目は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数2単位の必修科目である。近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目として、今回の改訂において新たに設置された。今回の改訂においては、全ての教科、科目等を学ぶ本質的な意義を各教科等の特質に応じた見方・考え方として整理した。その過程において、歴史総合で働かせる見方・考え方について、社会的事象の歴史的な見方・考え方として整理したところである。

2、目標は、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自

覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(4) 日本史探究

1、この科目は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数3単位の科目である。今回の改訂で設置された必修科目である歴史総合の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目である。

2、目標は、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(5) 世界史探究

1、この科目は、地理歴史科の中に設けられた標準単位数3単位の選択科目である。今回の改訂で設置された必修科目である歴史総合の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目である。

2、目標は、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わ

る事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3、公民

公民の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。教科目標のこの部分は、公民科で育成を目指す目標のうち柱書として示された箇所であり、以降示された、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等という、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った目標とともに、従前の目標の趣旨を継承するものとなっている。以下、公民の科目を見ていきたい。

(1) 公共

1、この科目は、新設され、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。また、公共の履修については、必修とし、原則として入学年次及びその次の年次の2か年のうちとした。高等学校において、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められることや選挙権年齢及び成年年齢の引下げなどを踏まえたものである。今回の改訂においては、全ての教科、科目、分野等において、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、目標に示す資質・能力の育成を目指すこととした。その過程において、公共で働かせる見方・考え方について、人間と社会の在り方についての見方・考え方として整理したところである。

2、目標は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 現実社会の諸課題の解決に

向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

(2) 倫理

1、この科目は、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化などに関わる諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養うことを基本的性格としている。今回の改訂においては、全ての教科、科目、分野等において、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、目標に示す資質・能力の育成を目指すこととした。その過程において、倫理で働かせる見方・考え方について、人間としての在り方生き方についての見方・考え方として整理したところである

2、目標は、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方、生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。(3) 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方、生き方についての自覚を深める。

(3) 政治・経済

1、この科目は、社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の政治、経済、国際関係の動向や本質に関わる諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを基本的性格としている。

政治・経済は、高等学校における政治、経済に関わる学習の最後に位置付けられており、言い換えれば、高校から社会に出る直前に学習する科目である。学習の積み上げという観点、社会とのつながりという観点から、社会で判断を迫られるであろう、正解が一つに定まらない現実社会に見られる複雑な課題を把握し、課題を追究したり解決に向けて構想したりする学習に取り組む。このような学習を通して、自立し、主体的に生きる国民主権を担う公民として他者と協働して、現実社会の諸課題の解決策を構想し、それを表現して他者に伝え意見を取りまとめて合意を形成していくことができる資質・能力を育成するものである。今回の改訂においては、全ての教科、科目、分野等において、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、目標に示す資質・能力の育成を目指すこととした。その過程において、政治・経済で働かせる見方・考え方について、社会の在り方についての見方・考え方として整理したところである。

2、目標は、社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

4、数学

数学の目標

目標、教科の目標の改善に当たっては、平成28年12月の中央教育審議会答申の内容を踏まえるとともに、高等学校における数学教育の意義を考慮し、小学校、中学校及び高等学校での教育の一貫性を図り児童生徒の発達に応じた適切かつ効果的な学習が行われるよう配慮した。数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする

態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。今回の改訂では、高等学校数学科の目標を、(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱に基づいて示すとともに、それら数学的に考える資質・能力全体を数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して育成することを目指すことを柱書に示した。すなわち、高等学校数学科の目標をなす資質・能力の三つの柱は、数学的な見方・考え方と数学的活動に相互に関連をもたせながら、全体として育成されることに配慮することが必要である。以下、数学の科目を見ていきたい。

(1) 数学 I

1、この科目は、高等学校数学科の共通必修科目であり、この科目だけで高等学校数学の履修を終える生徒と引き続き他の科目を履修する生徒の双方に配慮し、高等学校数学としてまとまりをもつとともに他の科目を履修するための基礎となるよう、(1) 数と式、(2) 図形と計量、(3) 二次関数及び(4) データの分析の四つの内容で構成している。また、数学的活動を一層重視し、生徒の主体的・対話的な学びを促し、数学のよさを認識できるようにするとともに、数学的に考える資質・能力を高めるよう課題学習を位置付けている

2、目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 数学 II

1、この科目は、数学 I を履修した後に、履修させることを原則としている。この科目は、より多くの生徒が、高等学校数学の根幹をなす内容について学習し数学的に考える資質・能力を育てるため、数学 I の内容を発展、拡充させるとともに、数学 III への学習の系統性に配慮し、(1) いろいろな式、(2) 図形と方程式、(3) 指数関数・対数関数、(4) 三角関数及び(5) 微分・積分の考えの五つの内容で構成している。また、この科目には数学 I と同様に、数学的活動を一層重視し、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにするとともに、数学的に考える資質・能力を高めるよう、課題学習を位置付けている。

2、目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(3) 数学Ⅲ

1、この科目は、数学Ⅱを履修した後に、履修させることを原則としている。この科目は、数学に強い興味や関心をもってさらに深く学習しようとする生徒や、将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒が数学的に考える資質・能力を伸ばすため、数学Ⅱの内容を発展、充実させるとともに、内容相互の関連を重視し(1) 極限、(2) 微分法及び(3) 積分法の三つの内容で構成している。また、この科目には数学Ⅰ、数学Ⅱと同様に、数学的活動を一層重視し、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにするとともに、数学的に考える資質・能力を高めるよう、課題学習を位置付けている。

2、目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え 数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(4) 数学A

1、この科目は、数学Ⅰとの並行履修又は数学Ⅰの後の履修を原則としている。この科目は、中学校数学の内容を踏まえ数学Ⅰの内容などを補完するとともに、事象を数学的に考える資質・能力を培い、数学のよさを認識できるようにするため、(1) 図形の性質、(2) 場合の数と確率及び(3) 数学と人間の活動の三つの内容で構成している。三つの内容のすべてを履修させ

るときは3単位程度を要するが、標準単位数は2単位であり、生徒の特性や学校の実態、単位数等に応じて内容を適宜選択させることとしている。

2、目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(5) 数学 B

1、この科目は、数学 I を履修した後に履修させることを原則としている。この科目は、数学的な素養を広げようとする生徒や、将来自然科学や社会科学、人文科学など様々な分野に進もうとする生徒が、数学の知識や技能を活用して問題を解決したり意思決定をしたりすることなどを通して数学的に考える資質・能力を養うため、数学 I より進んだ内容で数学の活用面において基礎的な役割を果たすと考えられる (1) 数列、(2) 統計的な推測及び (3) 数学と社会生活の三つの内容で構成している。三つの内容のすべてを履修させるときは、3単位程度を要するが、標準単位数は2単位であり、生徒の特性や学校の実態、単位数等に応じて内容を適宜選択させることとしている。

2、目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(6) 数学 C

1、この科目は、数学 I を履修した後に履修させることを原則としている。この科目は、数学的な素養を広げようとする生徒や、将来自然科学や社会科学、人文科学など様々な分野に進もうとする生徒が、数学的な表現の工夫などを通して数学的に考える資質・能力を養うため、

数学Ⅰより進んだ内容で、数学Ⅱと同様に、生徒の実態に応じてその内容を適宜選択して履修させることとした。内容のすべてを履修させるときは、3単位程度を要するが、標準単位数は2単位であり、生徒の特性や学校の実態、単位数等に応じて内容を適宜選択させることとしている。

2、目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

5、理科

理科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。以下、理科の科目を見ていきたい。

(1) 科学と人間生活

1、この科目は、中学校までに学習した内容を基礎として、自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに関与を与え、どのような役割を果たしてきたかについて、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学に対する興味・関心を高め、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するという点に特色をもつ科目である。

2、目標は、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

(2) 物理基礎

この科目は、中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。物理基礎の特徴は、物体の運動と様々なエネルギーに関わる基礎的な内容を扱い、日常生活や社会との関連を図りながら、物理学が科学技術に果たす役割などについての認識を深めさせ、科学的に探究する力と態度を育成することである。物理基礎は、このような特徴をもった科目であるので、生徒に身の回りの事物・現象に関心をもたせ、主体的に関わらせる中で、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することが大切である。また、日常生活や社会で活用されている具体的な事例を取り上げて、物理学の果たす役割を理解させ、物体の運動と様々なエネルギーに対する興味・関心を高めさせるように配慮することが必要である。物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようにすることが大切である。

2、目標は、物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

(3) 物理

1、この科目は、中学校理科及び物理基礎との関連を図りながら、物理的な事物・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。物理学の特徴は、できるだけ単純化した条件下で、自然の事物・現象について観察、実験を行い、観測及び測定された量の間関係からより普遍的な法則を見だし、さらに、その法則から新しい事物・現象を予測したり、説明したりすることができることである。物理は、このような物理学の特徴を踏まえて、物理的な事物・現象についての内容を扱い、観察、実験を行うことなどを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的に探究する力や態度を育成するようにしている。

2、目標は、物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

(4) 化学基礎

この科目は、中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。化学基礎の特徴は、物質とその変化に関わる基礎的な内容を扱い、日常生活や社会との関連を図りながら、化学が科学技術に果たす役割などについての認識を深めさせ、科学的に探究する力と態度を育成することである。

2、目標は、物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

(5) 化学

1、この科目は、中学校理科及び化学基礎との関連を図りながら、化学的な事物・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。化学は物質を対象とする科学であり、その特徴は、観察、実験を通して、物質の構造や性質、反応を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する規則性や関係性を見いだすとともに、その知識を生かして物質を利用したり目的にかなった物質をつくりだしたりすることにある。化学の履修によって、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせるとともに、科学的に探究する力や科学的に探究しようとする態度を養うことが大切である。

2、目標は、化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

(6) 生物基礎

1、この科目は、中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。生物基礎の特徴は、生物や生物現象に関わる基礎的な内容を扱い、日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解させるとともに、科学的に探究する力と態度を育成することである。

2、目標は、生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

(7) 生物

1、この科目は、中学校理科及び生物基礎との関連を図りながら、生物や生物現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。生物や生物現象の特徴は、多様でありながら共通性が見られること、多くの生物的・非生物的要因が関与しているということである。また、これらが生物の進化によるものであることも特徴である。生物は、このような生物や生物現象の特徴を踏まえた科目であり、今回の改訂では進化の視点を重視している。この視点を意識しながら、観察、実験を行うことなどを通して、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的に探究する力や態度を育成するようにしている。さらに、季節や地域の実態などに応じて素材としての生物を選び、生物や生物現象に対する探究心を高めさせるように配慮することが必要である。

2、目標は、生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

(8) 地学基礎

1、この科目は、中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。地学基礎の特徴は、地球や地球を取り巻く環境に関わる基礎的な内容を扱い、日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解させるとともに、科学的に探究する力と態度を育成することである。

地学基礎の履修によって、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究する力を育成するとともに、地球や地球を取り巻く環境と日常生活や社会との関わりを考えることができるようにすることが大切である。

2、目標は、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもつ

て観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

(9) 地学

1、この科目は、中学校理科及び地学基礎との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。地球や地球を取り巻く環境の特徴は、長大な時間の流れや広大な空間の広がりの中で、多様な事物・現象が相互に関連しながら複雑に変化し続けていることである。また、これらの変化が自然災害の要因となりうることも特徴である。地学の履修によって、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせるとともに、科学的に探究する力や科学的に探究しようとする態度を養うことが大切である。

2、目標は、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

6、保健体育

保健体育の目標

教科の目標は、高等学校教育における保健体育科の果たすべき役割を総括的に示すとともに、小学校、中学校及び高等学校の教科の一貫性を踏まえ、高等学校としての重点や基本的な指導の方向を示したものである。今回改訂した保健体育科の目標は、育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、引き続き、体育と保健を関連させていく考え方を強調したものである。体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度

を養う。以下、保健体育の科目を見ていきたい。

(1) 体育

1、この科目、スポーツの意義は、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つであることにある。心身の両面に影響を与えるこの文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有している。健康の保持増進などのために行われる運動や一定のルールや文化性をもつスポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や自然に親しむなどの楽しさ、喜びをもたらす、さらには、体力の向上や、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものである。また、スポーツを通じた共生社会の実現や地域の一体感及び活力の醸成に寄与するものである。

2、目標は、体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

(2) 保健

1、この科目は、少子化や情報化など社会の急激な変化による近年の児童生徒の成育環境や生活行動の変化、国民の疾病構造等の変化に関わって深刻化している心の健康、食生活をはじめとする生活習慣の乱れ、生活習慣病など、薬物乱用、性に関する問題など現代社会における健康・安全の問題は多様化しており、児童生徒のみならず国民全てにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となってきている。これらの問題に対処するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし、心身の健康の保持増進を図るための思考力、判断力、表現力等や健康を大切に、明るく豊かに生活する態度などの資質や能力を育成することが重要である。

2、目標は、保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

7、芸術

芸術の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。以下、芸術の科目を見ていきたい。

(1) 音楽Ⅰ

1、この科目は、高等学校において音楽を履修する生徒のために設けている最初の科目である。音楽Ⅰは、中学校音楽科における学習を基礎にして、A表現の(1)歌唱、(2)器楽、(3)創作及びB鑑賞についての幅広い活動を展開し、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指しており、音楽Ⅱ、音楽Ⅲにおける発展的な学習の基礎を養う科目という性格を有している。

2、目標は、音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

(2) 音楽Ⅱ

1、この科目は、音楽Ⅰを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。音楽Ⅱは、音楽Ⅰの学習を基礎にして、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成

することをねらいとしている。そこで、音楽Ⅱでは、音楽Ⅰの学習経験を基盤として、個性豊かに音楽表現したり音楽をより深く味わって聴いたりすることができるようにするため、A 表現については、(1) 歌唱、(2) 器楽又は (3) 創作のうち一つ以上を選択して扱うことができること、B 鑑賞については、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を配当することとしている。

2、目標は、音楽Ⅰの目標との関連を考慮して、次のように示している。音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

(3) 音楽Ⅲ

1、この科目は、音楽Ⅱを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。音楽Ⅲは、音楽Ⅰ及び音楽Ⅱの学習を基礎にして、更に生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとしている。そこで、音楽Ⅲでは、音楽Ⅰ及び音楽Ⅱの学習経験を基盤として、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた学習内容を設定し、一人一人の個別的な深化を図る。

2、目標は、音楽Ⅰ及び音楽Ⅱの目標との関連を考慮して、次のように示している。音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

(4) 美術Ⅰ

1、この科目は、高等学校において美術を履修する生徒のために設けている最初の科目である。美術Ⅰは、中学校美術科における学習を基礎にして、A 表現及び B 鑑賞についての幅広い活動を展開し、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指しており、美術Ⅱ、美術Ⅲにおける

発展的な学習の基礎を養う科目という性格を有している。今回の改訂では、科目の目標を(1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示すとともに、内容についてもこれに対応して、資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう整理した。具体的には、知識については、今回新設となる共通事項、技能は、A表現(1)から(3)までイの指導事項に位置付けられている。思考力、判断力、表現力等はA表現(1)から(3)までのアの指導事項及びB鑑賞(1)の指導事項に位置付けられている。学びに向かう力、人間性等は、A表現、B鑑賞及び共通事項を指導する中で、一体的、総合的に育てていくものである。

2、目標は、美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(5) 美術Ⅱ

1、この科目は、美術Ⅰを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。美術Ⅱは、美術Ⅰの学習を基礎にして、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとしている。今回の改訂では、従前と同様に、表現領域のうち一つ以上の分野と鑑賞領域を学習することとし、美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、実感をもって表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成することを重視している。そのため、科目の目標を美術Ⅰと同様に、(1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示すとともに、内容についてもこれに対応して、資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう整理した。

2、目標は、美術Ⅰの目標との関連を考慮して、次のように示している。美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(6) 美術Ⅲ

1、この科目は、美術Ⅱを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。美術Ⅲは、美術Ⅰ及び美術Ⅱの学習を基礎にして、更に生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとしている。今回の改訂では、美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、より実感をもって表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成することを重視している。そのため、科目の目標を美術Ⅰ及び美術Ⅱと同様に、(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示した。内容についても目標に対応して、資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう整理した

2、目標は、美術Ⅰ及び美術Ⅱの目標との関連を考慮して、次のように示している。美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。(2) 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(7) 工芸Ⅰ

1、この科目は、高等学校において工芸を履修する生徒のために設けている最初の科目である。工芸Ⅰは、中学校美術科における学習を基礎にして、A 表現及び B 鑑賞についての幅広い活動を展開し、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指しており、工芸Ⅱ、工芸Ⅲにおける発展的な学習の基礎を養う科目という性格を有している。今回の改訂では、科目の目標を(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示すとともに、内容についてもこれに対応して、資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう整理した。

2、目標は、工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生

涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

(8) 工芸Ⅱ

1、この科目は、工芸Ⅰを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。工芸Ⅱは、工芸Ⅰの学習を基礎にして、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を伸ばすことなどをねらいとしている。今回の改訂では、従前と同様に、表現領域の(1)又は(2)のうち一つ以上の分野と鑑賞領域を学習することとし、工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、実感をもって表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成することを重視している。そのため、科目の目標を工芸Ⅰと同様に、(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示すとともに、内容についてもこれに対応して、資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう整理した。

2、目標は、工芸Ⅰの目標との関連を考慮して、次のように示している。工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3) 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

(9) 工芸Ⅲ

1、この科目は、工芸Ⅱを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。工芸Ⅲは、工芸Ⅰ及び工芸Ⅱの学習を基礎にして、更に生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとしている。今回の改訂では、工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、より実感をもって表現及び鑑賞に関する資質・能力を育成することを重視している。そのため、科目の目標を工芸Ⅰ及び工芸Ⅱと同様に、(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示した。また、工芸Ⅲは、内容についても目標に対応して、資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう整理した。

2、目標は、工芸Ⅰ及び工芸Ⅱの目標との関連を考慮して、次のように示している。工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会

の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。(2) 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3) 主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

(10) 書道Ⅰ

1、この科目は、高等学校において書道を履修する生徒のために設けている最初の科目である。書道Ⅰは、中学校国語科の書写における学習を基礎にして、A表現の(1)漢字 仮名交じりの書、(2)漢字の書、(3)仮名の書及びB鑑賞についての幅広い活動を展開し、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指しており、書道Ⅱ、書道Ⅲにおける発展的な学習の基礎を養う科目という性格を有している。今回の改訂では、科目の目標を(1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けて示している。また、高等学校国語科との関連を図りながら、生活や社会において有効に役立つ資質・能力を育むとともに、その背景となる文字文化への理解を深めることも大切である。

2、目標は、書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。(2)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。(3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(11) 書道Ⅱ

1、この科目は、書道Ⅰを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。書道Ⅱは、書道Ⅰでの学習を基礎にして、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することをねらいとしている。書道Ⅱにおいても、書道Ⅰと同様に、目標を(1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けた。

2、目標は、書道Ⅰの目標との関連を考慮して、次のように示している。書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文

化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(12) 書道Ⅲ

1、この科目は、書道Ⅱを履修した生徒が、更に次の段階として履修するために設けている科目である。書道Ⅲは、書道Ⅰ及び書道Ⅱでの学習を基礎にして、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を更に展開し、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を伸ばすことをねらいとしている。書道Ⅲにおいても、書道Ⅰ及び書道Ⅱと同様に、目標を(1) 知識及び技能、(2) 思考力、判断力、表現力等、(3) 学びに向かう力、人間性等の三つの柱に位置付けた。今回の改訂において、A 表現と B 鑑賞の両方を取り扱うことにしたのは、書道Ⅲにおいて知識、技能及び思考力、判断力、表現力等の全ての資質・能力を育成する必要があるからである。

2、目標は、書道Ⅰ及び書道Ⅱの目標との関連を考慮して、次のように示している。書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

8、外国語

外国語の目標

外国語科では、次のように目標を設定した。外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

外国語科の目標は、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することである。このためには、下記の(1)(2)(3)に示す知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等のそれぞれに関わる外国語特有の資質・能力を育成する必要があり、その際、外国語教育の特質に応じて、生徒が物

事を捉え、思考する外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることが重要である。(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。以下、外国語の科目を見ていきたい。

(1) 英語コミュニケーション I

1、この科目は、高等学校の外国語科で英語を履修する場合、全ての生徒に履修させる科目として創設した。この科目は、中学校における英語の学習内容との接続や高等学校での学習への円滑な移行を考慮しながら、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域を総合的に育成する科目である。なお、今回の改訂では、領域として話すことが話すことやり取りと話すこと発表に分かれているが、両者を示すことで、複数の話者が相互に話し伝え合う場合話すことやり取りと一人の話者が連続して話す場合話すこと発表という特性の違いを明確にしている。今回の改訂において、小学校外国語活動・外国語科、中学校外国語科、高等学校外国語科の目標は、外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることで育成される知識及び技能と思考力、判断力、表現力等について、高等学校卒業時において求められる資質・能力を見据えた上で、設定されている。

2、目標は、前述の外国語科の目標を踏まえ、領域ごとに具体的な目標を設定している。英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すことやり取り、話すこと発表、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと ア日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。イ社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと ア日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。イ社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと・やり取り ア日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと・発表 ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

(2) 英語コミュニケーションⅡ

1、この科目は、前述の外国語科の目標を踏まえ、領域ごとに具体的な目標を設定している。全ての生徒に履修させる科目である英語コミュニケーションの学習を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を効果的に関連付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域の総合的な指導を発展的に行う科目である。本科目では、より自律した英語学習者の育成を目指し、多くの支援を活用する段階から、必要に応じて一定の支援を活用する段階へと移行する。また、本科目では、語彙や表現などの言語材料がより多様になることから、指導に当たっては、英語コミュニケーションⅠで指導された言語材料などの学習内容を、本科目の言語活動において繰り返し活用したり、生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを話したり書いたりして表現できるような段階まで定着させることが重要である。

2、目標は、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと ア日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。イ社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと ア日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。イ社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと・やり取り ア日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと・発表 ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(3) 英語コミュニケーションⅢ

1、この科目は、英語使用者としての自律性を更に高める必要から、英語コミュニケーションⅡにおける一定の支援を活用する段階から、ほとんど支援がなくても課題に取り組むことができる段階へと移行する。これは、生徒自身が、コミュニケーションの目的を達成するためにはどのように対応すべきかを判断し、支援がほとんどなくても自力で目的を達成できるようになる、あるいは必要な支援を他者に求めたり協働したりしながら目的を達成することができるようになることを意味している。前述の外国語科の目標を踏まえ、領域ごとに具体的な目標を設定している。

2、目標は、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと ア日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の

意図を把握することができるようにする。イ社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと ア日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。イ社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと・やり取り ア日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと・発表 ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。イ社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

(4) 論理・表現 I

1、この科目は、中学校などにおけるコミュニケーションを図る資質・能力を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、話すことやり取り、話すこと発表、書くことを中心とした発信能力の育成を強化する指導を行う科目である。特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、一つの段落の文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして伝える又は伝え合うことなどができるようになるための指導を行う。本科目では、複数の領域を結び付けた統合

的な言語活動を取り入れながらも、発信に係る三つの領域別の言語活動を重点的に行うことが大切である。前述の外国語科の目標を踏まえ、領域ごとに具体的な目標を設定している。

2、目標は、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すことやり取り、話すこと発表、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと・やり取り ア日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと・発表 ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

(5) 論理・表現Ⅱ

1、この科目は、前述の外国語科の目標を踏まえ、領域ごとに具体的な目標を設定している。論理・表現Ⅰの学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、話すことやり取り、話すこと発表、書くことを中心とした発信能力の育成を強化するための指導を発展的に行う科目である。本科目では特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、複数の段落から成る文章を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして詳しく伝える又は伝え合うことなどができるようになることを目標としている。複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を取り入れながらも、特に発信に係る三つの領域別の言語活動を重点的に行うことが大切であることについては、論理・表現Ⅰと同様である。

2、目標は、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと・やり取り ア日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと・発表 ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

(6) 論理・表現Ⅲ

1、この科目は、前述の外国語科の目標を踏まえ、領域ごとに具体的な目標を設定している。論理・表現Ⅰ及び論理・表現Ⅱの学習内容を踏まえ、三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、話すことやり取り、話すこと発表及び書くことを中心とした発信能力の育成を強化するための指導を発展的に行う科目である。本科目では特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、複数の段落から成る文章を書くことなどを通して、聞き手や読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして詳しく伝える又は伝え合うことなどができるようになることを目標としている。複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を取り入れながらも、発信に係る三つの領域別の言語活動を重点的に行うことが大切であることについては、論理・表現Ⅰ及び論理・表現Ⅱと同様である。

2、目標は、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を

目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと・やり取り ア日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと・発表 ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して複数の資料を活用しながら多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと ア日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。イ日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

9、家庭

家庭の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。(3) 様々な

人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。今回の改訂においては、従前の家庭科の目標の趣旨を継承するとともに、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進、成年年齢の引下げ等への対応を一層重視し、生活を主体的に営むために必要な理解と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指し、家庭科の目標を示した。以下、家庭の科目を見ていきたい。

(1) 家庭基礎

1、この科目は、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進、成年年齢の引下げ等を踏まえて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する科目である。今回の改訂においては、小・中・高等学校の系統性を踏まえ、内容構成を A 人の一生と家族・家庭及び福祉、B 衣食住の生活の自立と設計、C 持続可能な消費生活・環境に D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を加えた四つに整理した。また、生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフステージに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着や、生涯にわたってこれらの力を活用して課題を解決できるよう内容の改善を図った。

2、目標は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

(2) 家庭総合

1、この科目は、少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進、成年年齢の引下げ、生活文化の継承等を踏まえて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解と技能を体験的・総合的に身に付け、科学的な根拠に基づいて課題を解決する力を養い、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことにより、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する科目である。今回の改訂においては、小・中・高等学校の系統性を踏まえ、内容構成を A 人の一生と家族・家庭及び福祉、B 衣食住の生活の科学と文化、C 持続可能な消費生活・環境に D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を加

えた四つに整理した。また、生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフステージに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着はもとより、生活文化の継承・創造の観点から内容を充実するとともに、従前の生活デザインの趣旨を継承し、生活の価値や質を高めつつ、豊かな生活を楽しむことができる実践力を育成することを重視して内容の改善を図った。

2、目標は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う

10、情報

情報の目標

教科の目標は次のとおりである。情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

知・徳・体にわたる生きる力を子供たちに育むため、何のために学ぶのかという学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教材の改善を引き出していけるよう、身に付けるべき資質・能力を①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理した。このことを踏まえ、共通教科情報科では、教科の目標において、身に付けるべき①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等を示している。教科の目標は、全ての生徒が履修する科目である情報Ⅰと、情報Ⅰの履修を前提として選択的に履修される科目である情報Ⅱの目標を包括して示したものである。以下、情報の科目を見ていきたい。

(1) 情報Ⅰ

1、この科目は、具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向け

て情報と情報技術を活用するための知識と技能を身に付け、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための力を養い、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することである。

2、目標は、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

(2) 情報Ⅱ

1、この科目は、具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用するための知識と技能を身に付けるようにし、適切かつ効果的、創造的に活用する力を養い、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を養うことである。

2、目標は、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

11、理数

理数の目標

様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。(2) 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。(3) 様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。この目標は、理数科において、どのような資質・能力の育成を目指しているのかを簡潔に示したものである。初めに、どのような学習の過程を通してねらいを達成するかを示し、(1) では育成を目指す資質・

能力のうち知識及び技能を、(2)では思考力、判断力、表現力等を、(3)では学びに向かう力、人間性等をそれぞれ示し、三つの柱に沿って明確化した。なお、課題を解決するために必要な資質・能力については、相互に関連し合うものであり、目標(1)から(3)は育成する順を示したのではないことに留意することが必要である。以下、理数の科目について見ていきたい。

(1) 理数探究基礎

1、この科目は、様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を育成する科目である。理数探究基礎の特徴は、探究の過程全体を自ら遂行するために必要な基本的な知識及び技能を身に付け、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとする態度を養うなど、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を育成することである。様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を育成することを目指す。

2、目標は、理数科の目標を受けて示しているものであり、様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を育成することである。

(1) 探究するために必要な基本的な知識及び技能を身に付けるようにする。(2) 多角的、複合的に事象を捉え、課題を解決するための基本的な力を養う。(3) 様々な事象や課題に知的好奇心をもって向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとする態度を養う。

(2) 理数探究

1、この科目は、様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成する科目である。理数探究の特徴は、生徒自らが課題を設定した上で、主体的に探究の過程を遂行し、探究の成果などについて報告書を作成させるなど、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することである。理数探究様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2、目標は、理数科の目標を受けて示しているものであり、様々な事象に関わり、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成することである。

(1) 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。(2) 多角的、複合的に事象を捉え、数学や理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。(3) 様々な事象や課題に主体的に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を養う。

12、総合的な探求の時間

総合的な探求の時間の目標

1、この科目は、平成28年12月の中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに、各教科・科目等における改訂の具体的な方向性も示された。今回の総合的な学習の時間の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協働的な学習とすることが重要であるとしてきた。高等学校においては、名称を総合的な探究の時間に変更し、小・中学校における総合的な学習の時間の取組を基盤とした上で、各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見方・考え方を組み合わせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見だし探究する力を育成するようにした。

2、目標は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指すものであることを明確化した。教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校が総合的な探究の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することを示した。総合的な探究の時間のねらいや育成を目指す資質・能力を明確にし、その特質と目指すところが何かを端的に示したものが、以下の総合的な探究の時間の目標である。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

以上から、目標は、大きく分けて二つの要素で構成され、一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するという、総合的な探究の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、(1)～(3)に示している、総合的な探究の時間を通して育成することを目指す資質・能力である。育成することを目指す資質・能力は、他教科等と同様に、(1)では総合的な探究の時間において育成を目指す知識及び技能を、(2)では思考力、判断力、表現力等を、(3)では学びに向かう力、人間性等を示している。

以上にて共通科目を見てきたが、次節にて高等学校学習指導要領による専門科目商業についてみていく。

2. 2 商業における専門科目

2. 2. 1 高等学校学習指導要領による商業科目

文部科学省は平成30(2018)年3月30日に学校教育法施行規則の一部改正と高等学校学習指導要領を改訂し、新高等学校学習指導要領(平成30年告示)が平成34年度(令和4年度、2022年度)の入学生から年次進行により段階的に適用された。商業科目も新学習指導要領商業編にて告示された。以下、(1)商業科の科目構成、(2)商業科の分野構成、(3)商業の各科目について高等学校学習指導要領(平成30年告示)商業編解説を中心としてみていくものとする。ただし、商業の目標は2.4.1学習指導要領による評価観点にて後述する。

(1) 商業科の科目構成

新学習指導要領商業編第1章第4節1によれば、商業科は、従前と同様に20科目で構成している。科目の新設、整理統合、分離など改訂前の科目との関連については、以下に示すとおりとしている。

新旧科目構成

改訂	改訂前	備考
ビジネス基礎	ビジネス基礎	
課題研究	課題研究	
総合実践	総合実践	
ビジネス・コミュニケーション	ビジネス実務	再構成
マーケティング	マーケティング	整理統合
	広告と販売促進	
商品開発と流通	商品開発	名称変更
観光ビジネス		新設
ビジネス・マネジメント	ビジネス経済応用	分離
グローバル経済	ビジネス経済	整理統合
ビジネス法規	経済活動と法	名称変更
簿記	簿記	
財務会計Ⅰ	財務会計Ⅰ	
財務会計Ⅱ	財務会計Ⅱ	
原価計算	原価計算	
管理会計	管理会計	
情報処理	情報処理	
ソフトウェア活用	ビジネス情報	名称変更
プログラミング	プログラミング	整理統合
ネットワーク活用	電子商取引	再構成
ネットワーク管理	ビジネス情報管理	分離

(2) 商業科の分野構成

新学習指導要領商業編第1章第4節2によれば、平成21年改訂の学習指導要領に係る高等学校学習指導要領解説商業編においては、教科組織上の分野を、マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野とし、原則履修科目であるビジネス基礎を教科の基礎的科目、課題研究、総合実践、ビジネス実務を総合的科目とするとともに、他の16科目を四つの分野に分類し、各分野にそれぞれ位置付けていた。

今回の改訂（平成30年告示）では、ビジネスで必要とされる資質・能力を見据え、ビジネス経済分野をマネジメント分野に改めた。ビジネス基礎、課題研究、総合実践、及びビジネス・コミュニケーションについては分野共通の科目とするとともに、その中のビジネス基礎とビジネス・コミュニケーションは基礎的科目、課題研究と総合実践は総合的科目とした。この分野共通科目の基礎科目ビジネス基礎と総合科目課題研究は原則履修科目である。

表 2-2 分野構成

分野	各科目の分野	分野共通の科目	
		基礎的科目	総合的科目
マーケティング分野	マーケティング 商品開発と流通 観光ビジネス	ビジネス基礎* ビジネス・コミュニケーション	課題研究* 総合実践
マネジメント分野	ビジネス・マネジメント グローバル経済 ビジネス法規		
会計分野	簿記 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 原価計算 管理会計		
ビジネス情報分野	情報処理 ソフトウェア活用 プログラミング ネットワーク活用 ネットワーク管理		

注：*は、商業に関する学科における原則履修科目を表す。

出所：平成30年告示高等学校学習指導要領商業編解説 P18。

マーケティング、商品開発と流通、観光ビジネスについてはマーケティング分野、ビジネス・マネジメント、グローバル経済、ビジネス法規についてはマネジメント分野、簿記、財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱ、原価計算、管理会計については会計分野、情報処理、ソフトウェア活用、プログラミング、ネットワーク活用、ネットワーク管理についてはビジネス情報分野の科目とした。

各分野においては、教科の目標に示す資質・能力を踏まえ、マーケティング分野では、効果的にマーケティングを展開する力及び顧客を理解し、マーケティングの考え方を踏まえてビジ

ネスを展開する力、マネジメント分野では、経済社会の動向や法規などを踏まえて経営資源を最適に組み合わせてビジネスを展開する力、会計分野では、企業会計に関する法規と基準に基づき適正な会計処理を行い、利害関係者（ステークホルダー）に会計情報を提供する力及び会計情報をビジネスに効果的に活用する力、ビジネス情報分野では、適切な情報を提供する力及び情報や情報技術をビジネスに効果的に活用する力を育成する。

商業科においては、これらのビジネスを理解し、実践する力を育むことが大切である。あわせて、各分野を通して、職業人として必要な豊かな人間性、他者とコミュニケーションを図り協働する力などを育むことが大切である。

また、商業科に属する各科目はもとより、他の教科・科目をはじめ様々な学校教育活動と連携を図るとともに、地域や産業界、高等教育機関などと連携して、人材育成に取り組むことが重要である。

(3) 商業の各科目

平成30年告示高等学校学習指導要領商業編第2章第1節から20節によれば、商業の各科目の目標等の取扱いが述べられている。ここでは、学習指導要領商業編解説に基づき各科目の性格と目標についてみていくものとする。

商業の各科目

(1) ビジネス基礎

1、この科目は、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを主眼としたものであり、従前と同様に商業に関する学科における原則履修科目として位置付けている。今回の改訂では、地域におけるビジネスの推進の必要性を踏まえ、身近な地域のビジネスに関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定、身近な地域のビジネスの動向を捉える実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展のため、ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、経済社会における事例など実際のビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(2) 課題研究

1、この科目は、生徒の多様な実態に応じて個々の生徒の特性や進路希望などに即した教育活動を一層適切に進めるとともに、商業の各分野の学習で身に付けた知識、技術などを基に、ビジネスに関する課題を発見し、解決策を探究して創造的に解決するなど、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を一層高めることを主眼としたものであり、従前と同様に商業に関する学科における原則履修科目として位置付けている。

今回の改訂では、職業資格の取得については、職業資格に対する理解を深める視点から、職業資格を取得する意義、職業との関係などに関して探究する学習活動を取り入れるようにするなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。

(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、商業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、商業の各分野に関する課題を生徒が自ら設定し、主体的かつ協働的にその課題を探究し、課題の解決を図る実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展のため、ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、商業の各分野の学習で身に付けた知識と技術について、実務に即して深化・総合化を図り、課題の解決に生かすことができる知識と技術を身に付けるようにす

ることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、深化・総合化された知識、技術などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、商業の各分野の学習で身に付けた専門的な知識、技術などの深化・総合化など課題を解決する力の向上を目指して自ら学ぶ態度、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わって課題の解決を図り、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(3) 総合実践

1、この科目は、実務に即した実践的・体験的な学習活動を通して、商業の各分野の学習で身に付けた知識、技術などを基に、ビジネスの実務における課題を発見し、創造的に解決するなど、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を一層高めることを主眼としたものである。今回の改訂では、ビジネスの実務に一層対応できるようにする視点から、地域や産業界等と連携して具体的な実務について理解を深める学習活動を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考えを働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点をもち、商業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、実務に即した実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、知識、技術などを基にビジネスの実務に適切に対応し、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展のため、ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、商業の各分野の学習で身に付けた知識と技術について、実務に即して総合的に関連付け、実際のビジネスの場面に対応する際に生かすことができる知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、実務と関連付けられた知識、技術などを総合的に活用し、ビジネスの実務における課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠

に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、専門的な知識、技術などを基盤としてビジネスで実践する力の向上を目指して自ら学ぶ態度、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(4) ビジネス・コミュニケーション

1、この科目は、グローバル化する経済社会において、組織の一員として協働し、ビジネスを展開する力が一層求められるようになってきている状況を踏まえ、ビジネスにおいて円滑にコミュニケーションを図るために必要な資質・能力を育成する視点から、従前のビジネス実務の指導項目を再構成したものである。今回の改訂では、ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションに関する指導項目及び日本と外国との文化と商慣習の違いに関する指導項目を取り入れるとともに、ビジネス英語に関する指導項目を生徒や地域の実態に応じて適切な外国語を扱うことができるようにするなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力のとおり育成することを目指す。

(1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、日本語と外国語によるコミュニケーションを図る実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおいて円滑にコミュニケーションを図ることについて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ビジネスにおけるコミュニケーションをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションが企業活動に及ぼす影響を踏まえ、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養うことを意味している。

(5) マーケティング

1、この科目は、経済のグローバル化や顧客のニーズの多様化など市場環境が変化する中で、顧客満足の実現、顧客の創造、顧客価値の創造などマーケティングの考え方の広がりに対応して、効果的にマーケティングを展開するために必要な資質・能力を育成する視点から、従前のマーケティングと広告と販売促進の指導項目を整理して統合したものである。

今回の改訂では、従前の広告と販売促進の指導項目をプロモーション政策に整理し、マーケティングに関する一連の学習の中で扱うことができるようにするとともに、マーケティングに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、市場調査、製品政策、価格政策、チャネル政策及びプロモーション政策の立案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングの考え方の広がりに対応し、マーケティングについて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(6) 商品開発と流通

1、この科目は、商品の開発と流通に関する知識、技術などを一体的に身に付け、流通を見据えて商品開発を行うとともに、商品の企画や事業計画を理解した上で流通を展開するために

必要な資質・能力を育成する視点から、従前の商品開発の指導項目を改善し、科目の名称を改めたものである。今回の改訂では、流通とプロモーションの動向・課題に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、商品の企画、事業計画及び流通とプロモーションに関する計画の立案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、企業における事例など実際の商品開発・流通と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ商品開発と流通に関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、商品開発と流通をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、商品開発と流通に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、商品開発と流通に関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、商品の企画、事業計画の立案、流通とプロモーションなどに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(7) 観光ビジネス

1、この科目は、地域の活性化を担うよう、観光ビジネスについて実践的・体験的に理解し、国内に在住する観光客及び海外からの観光客を対象とした観光ビジネスを展開するために必要な資質・能力を育成する視点から新たに設けたものであり、観光資源と観光政策、観光ビジネスとマーケティング、観光ビジネスの展開と効果などの指導項目で構成した。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づ

いて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場면을想定し、観光資源の効果的な活用、マーケティング及び国内旅行と訪日観光の振興策の考案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(8) ビジネス・マネジメント

1、この科目は、ビジネスを取り巻く環境が変化する中で、企業活動が社会に及ぼす影響に責任を持ち、経営資源を最適に組み合わせて適切にマネジメントを行うために必要な資質・能力を育成する視点から、従前のビジネス経済応用の企業経営、ビジネスの創造などに関する指導項目を分離したものである。

今回の改訂では、人的資源、物的資源など経営資源のマネジメントに関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。

(2) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場면을想定し、経営資源のマネジメントを行う方策や新たなビジネスの考案に取り組

む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントについて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、企業における事例など実際のマネジメントと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(9) グローバル経済

1、この科目は、経済のグローバル化が進展する中で、企業活動が社会に及ぼす影響に責任をもち、地球規模で経済を俯瞰し、経済のグローバル化に適切に対応して直接的・間接的に他国と関わりをもつてビジネスを展開するために必要な資質・能力を育成する視点から、従前のビジネス経済の指導項目とビジネス経済応用の経済に関する指導項目を整理して統合したものである。

今回の改訂では、人材や金融などのグローバル化の動向・課題、企業活動のグローバル化に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、グローバル化する経済社会におけるビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解できるようにする。

(2) 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点をもち、ビジネスの場面を想定し、地球規模で経済を俯瞰して地域の資源をビジネスに役立てる方策の考案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経済のグローバル化に対応したビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、企業における経済のグローバル化への対応など実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けるようにすることを意味してい

る。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、経済に関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応したビジネスの展開に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(10) ビジネス法規

1、この科目は、経済のグローバル化、規制緩和、情報化など経済環境が変化する中で、法規に基づいてビジネスを適切に展開するために必要な資質・能力を育成する視点から、従前の経済活動と法の指導項目を改善し、科目の名称を改めたものである。

今回の改訂では、民法に関する指導項目を精選するとともに、労働者と情報の保護及び税に係る法規に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。

(2) 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、法的な根拠に基づいて課題の解決策を考案する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づいたビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、企業における事例など実際のビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ法規に関する知識を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ビジネスに関する法規をはじめとした様々な知識などを活用し、法的側面からビジネスに関する課題を発見するとともに、ビジネスが社会に及ぼす影響を踏まえ、法的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら法規について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、法規に基づくビジネスに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(11) 簿記

1、この科目は、企業において日常発生する取引について適正に記録するとともに、適正な財務諸表を作成するために必要な資質・能力を育成することを主眼としたものである。

今回の改訂では、コンピュータを活用した会計処理の普及に伴う実務の変化を踏まえ、仕訳帳の分割に関する指導項目を削除するとともに、扱う伝票の種類について入金、出金及び振替の三つとするほか、会計ソフトウェアの活用に関する指導項目を従前のビジネス実務から移行するなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。

(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、取引の記録と財務諸表の作成を適正に行って企業の社会的責任を果たす視点を持ち、取引の記録と財務諸表の作成を行う場面を想定し、記帳や決算に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適正な取引の記録と財務諸表の作成について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、簿記をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、簿記に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力を養うことを意味している。目標の(3)については、企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら簿記について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、記帳、決算など適正な取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(12) 財務会計Ⅰ

1、この科目は、適切な会計情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力を育成することを主眼としたものである。

今回の改訂では、株式会社の実務で必要とされる会計処理の内容を踏まえ、外貨建取引の会計処理に関する指導項目などを従前の財務会計Ⅱから移行するとともに、社債の発行の会計処理、連結財務諸表の作成に関する指導項目などを財務会計Ⅱに移行するなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。

(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、会計処理を適正に行って企業の社会的責任を果たす視点を持ち、会計処理を行う場面を想定し、会計処理や財務諸表の作成と分析に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切な会計情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、財務会計をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見だすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力及び財務指標を組み合わせることで企業の実態を総合的に分析する力を養うことを意味している。目標の(3)については、会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(13) 財務会計Ⅱ

1、この科目は、財務会計Ⅰの学習を基礎として、適切な会計情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力を育成することを主眼としたものである。

今回の改訂では、株式会社の実務で必要とされる会計処理の内容を踏まえ、連結税効果会計に関する指導項目を取り入れるとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を育成するようにするなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネ

スに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。

(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、会計処理を適正に行って企業の社会的責任を果たす視点を持ち、会計処理を行う場面を想定し、キャッシュ・フローに関する財務諸表の作成や企業集団の会計処理に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切な会計情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、財務会計をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力、財務指標を組み合わせることで企業の実態を総合的に分析する力及び経営判断が企業に及ぼす影響を会計的側面から分析する力を養うことを意味している。目標の(3)については、会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、国際的な会計基準を踏まえた企業集団の会計処理などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(14) 原価計算

1、この科目は、適切な原価情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力を育成することを主眼としたものである。

今回の改訂では、実務で必要とされる原価計算、会計処理などの内容を踏まえ、標準原価計算においてシングルプランによる記帳法に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。

(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、会計処理を適正に行って企業の社会的責任を果たす視点を持ち、会計

処理を行う場面を想定し、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切な原価情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力を養うことを意味している。目標の(3)については、企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら原価計算について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果の各科目的な活用に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(15) 管理会計

1、この科目は、経営管理に有用な適切な会計情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力を育成することを主眼としたものである。

今回の改訂では、実務で必要とされる経営管理などの内容を踏まえ、業績測定に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に有用な会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。

(3) 適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、経営管理を適切に行って企業の社会的責任を果たす視点をもち、意思決定に必要な会計情報を提供する場面を想定し、短期利益計画の立案や業績測定に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に有用な適切な会計情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、管理会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けるようにする

ことを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、管理会計をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、経営管理が社会に及ぼす影響を踏まえ、管理会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力を養うことを意味している。目標の(3)については、会計情報を活用して適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら管理会計について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、短期利益計画の立案、業績測定など経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(16) 情報処理

1、この科目は、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析して表現し、活用する一連の活動を、情報セキュリティの確保、知的財産の保護などに留意して行うなど、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを主眼としたものである。

今回の改訂では、情報を適切に表現し、活用できるようにする視点から、情報デザイン及び問題の発見と解決の方法に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点をもち、ビジネスの場面を想定し、情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報を適切に扱うことについて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ情報の収集・処理・分析・表現と活用に関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ビジネスに関する情報の扱いをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業において情報を収集・処理・分析して表現し、活用することに関する課題を発見するとともに、情報の管理と発信が社会に及ぼす影響を踏まえ、情報セキュリティの確保などに関する技術、情報の扱いに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、企業活動を改善する力の向上

を目指して自ら情報を収集・処理・分析して表現し、活用することについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションなどに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(17) ソフトウェア活用

1、この科目は、企業活動においてソフトウェアを活用するために必要な資質・能力を育成する視点から、従前のビジネス情報の指導項目を改善し、科目の名称を改めたものである。

今回の改訂では、ビジネス計算に関する指導項目をビジネス基礎に移行するとともに、仕入・販売管理ソフトウェアとグループウェアの活用に関する指導項目を従前のビジネス実務から移行するなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、表計算ソフトウェア、データベースソフトウェアなどの活用に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ソフトウェアの活用をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見するとともに、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術、ソフトウェアの活用に関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動における表計算ソフトウェア、データベースソフトウェアなどの活用に関心をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(18) プログラミング

1、この科目は、プログラムと情報システムを開発する環境の多様化と携帯型情報通信機器

の普及に対応するとともに、プログラムと情報システムの開発を一連の流れとして捉え、企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発するために必要な資質・能力を育成する観点から、従前のプログラミングの指導項目とビジネス情報管理の情報システムの開発に関する指導項目を整理して統合したものである。

今回の改訂では、情報システムの開発に関する指導項目を従前のビジネス情報管理から移行するとともに、携帯型情報通信機器用ソフトウェアの開発環境の利用に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、プログラムと情報システムの開発に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、プログラミングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見するとともに、プログラムと情報システムの開発が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、プログラムと情報システムの開発に関する技術、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(19) ネットワーク活用

1、この科目は、情報技術の進歩に伴うビジネスの多様化とビジネスにおいてインターネットを活用することに伴う様々な課題に適切に対応し、インターネットを効果的に活用するとともに、インターネットを活用したビジネスの創造と活性化に取り組むために必要な資質・能力を育成する観点から、従前の電子商取引の指導項目を再構成したものである。

今回の改訂では、インターネットを活用したビジネスの創造に関する指導項目を取り入れるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、情報コンテンツの制作、インターネットを活用した企業情報の発信に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つインターネットの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、インターネットの活用をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、ウェブページの制作に関する理論と技術、経済社会の動向、インターネットを活用したビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、インターネットを活用してビジネスを展開するなど企業活動を改善する力の向上を目指して自らインターネットの活用について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、情報コンテンツやウェブページの制作、インターネットを活用した企業情報の発信や商取引などに責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

(20) ネットワーク管理

1、この科目は、情報通信ネットワークの活用の拡大と情報セキュリティ管理の必要性の高まりに対応し、情報資産を共有し保護する環境を提供するために必要な資質・能力を育成する視点から、従前のビジネス情報管理の情報通信ネットワークに関する指導項目を分離したものである。

今回の改訂では、人的対策、技術的対策など情報セキュリティ管理に関する指導項目を充実させるなど改善を図った。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 情報資産を共有し保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 情報資産を共有し保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

この科目においては、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、情報セキュリティ管理や情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報資産を共有し保護する環境の提供について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとしている。

目標の(1)については、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ情報セキュリティ管理及び情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理に関する知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。目標の(2)については、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ネットワークの管理をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、情報資産を共有し保護する環境の提供に関する課題を発見するとともに、情報通信ネットワークの管理が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、情報通信ネットワークに関する技術、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力を養うことを意味している。目標の(3)については、企業活動を改善する力の向上を目指して自ら情報セキュリティ管理及び情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、情報資産を共有し保護する環境の提供に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

以上に、各科目を見てきたが、商業科では情報Ⅰと総合的探究の時間は履修されていない。そこで、専門教科・科目による必修教科・科目の代替について確認したい。

2. 2. 2 専門教科・科目による必修教科・科目の代替と特例

専門教科・科目を履修することによって、必修教科・科目の履修と同様の成果が期待できる場合は、その専門教科・科目の履修をもって必修教科・科目の履修の一部又は全部に替えることができる。実施に当たっては、専門教科・科目と必修教科・科目相互の目標や内容について、あるいは代替の範囲などについて十分な検討を行うことが必要である。この調整が適切に行われることにより、より効果的で弾力的な教育課程の編成に取り組むことができる。

商業に関する学科においては、例えば、情報処理の履修により情報Ⅰの履修に代替することなどが考えられるが、全部代替する場合、情報処理の履修単位数は2単位以上必要である。な

お、この例示についても、機械的に代替が認められるものではない。代替する場合には、各学校には説明責任が求められる。つづいて、職業学科の総合的探究の時間の特例については、総合的な探究の時間の履修により、農業、工業、商業、水産、家庭若しくは情報の各教科の課題研究、看護の看護4臨地実習又は福祉の介護総合演習（以下課題研究等という。）の履修と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な探究の時間の履修をもって課題研究等の履修の一部又は全部に替えることができること。また、課題研究等の履修により、総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合においては、課題研究等の履修をもって総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができる。

商業に関する学科においては、課題研究が原則履修科目とされている。この科目では、個人又はグループで商業の各分野に関する適切な課題を設定し、主体的かつ協働的に取り組む学習活動を通して、専門的な知識、技術などの深化・統合化を図り、ビジネスに関する課題の解決に取り組むことができるようにすることとしており、総合的な探究の時間の目標と課題研究の目標とが軌を一にする場合も想定される。そのため、総合的な探究の時間の履修をもって課題研究の履修の一部又は全部に替えることができるとするとともに、課題研究の履修をもって総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができるとしている。

なお、相互の代替が可能とされるのは、同様の成果が期待できる場合とされており、例えば、課題研究の履修によって総合的な探究の時間の履修に代替するためには、課題研究を履修した成果が総合的な探究の時間の目標等からみても満足できる成果を期待できることが必要であり、自動的に代替が認められるものでない。

次節にて学校設定科目と学校設定科目についてみていくものとする。

2. 3 学校設定科目と学校設定教科

2. 3. 1 学校設定科目

高等学校学習指導要領では指導要領に列挙されていなくとも必要があれば学校設定科目を設けることが出来るとしている。高等学校学習指導要領の学校設定科目エでは、第1章総則第2款3(1)イ及びウの表に掲げる教科について、これらに列挙されている科目以外の科目を設けることができることを示している。学校設定科目の名称、目標、内容、単位数等は各学校において定めるものとされているが、その際には、その科目の属する教科の目標に基づき、高等学校教育としての水準の確保に十分配慮しなければならないという要件が示されていること、及び科目の内容の構成については関係する各科目の内容との整合性を図ることに十分配慮する必要があるとしている。

2. 3. 2 学校設定科目と学校設定教科の取り組み

学校設定科目及び学校設定教科への取組では、第1章総則第2款3(1)エの学校設定科目及びオの学校設定教科のいずれも、学校における特色ある教育、特色ある学校づくりを進める仕組みの一つとして、有効に活用されることが期待される。特に、学校段階等間の円滑な接続を確保する観点から、教育課程の編成に当たって、生徒や学校の実態等に応じ、必要がある場

合には、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようすることを規定しており、その工夫の一つとして、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした学校設定科目等を履修させた後に、必履修教科・科目を履修させるようにすることと第1章総則第2款4(2)ウに示されている。このため、こうしたことも踏まえながら、生徒や学校の実態等に応じた適切な学校設定科目又は学校設定教科を開設することが重要である。なお、高等学校教育の目標は、義務教育の成果を発展・拡充させることであることから、生徒の実態に応じ義務教育段階の学習内容について学び直し、その成果を発展・拡充させるために、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図ることを目的とした学校設定教科・科目を高等学校の教科・科目として開設することは、このような高等学校教育の目標に適合するものである。また、ボランティア活動や就業体験活動など、学校外活動の単位認定を行うための学校設定教科・科目の開設も考えられる。こうした学校設定教科・科目の指導に当たっては、地域の専門家など外部の協力を得ることも効果的であると考えられる。なお、学校設定教科・科目については、各学校の判断で設けられることとなるが、このことは、学校設定教科・科目を含め、教育課程の編成について、教育委員会が公立学校に対して指導・助言を行う権限を有すること自体に変更を及ぼすものではないとしている。

2. 3. 3 愛知県立岡崎商業高等学校における学校設定科目

学校設定科目は高等学校の特色ある教育、特色ある学校づくりに有効性が高いとしている。この学校設定科目として、愛知県立岡崎商業高等学校では岡崎学、IT概論、インターンシップ、中国語を設置している。

以下、見ていくものとするが、岡崎学はすでに加藤千景、尾碕眞、吉田聡「ビジネス教育における効果的なグランドデザインに関する検証」として、令和5年2月発行の愛知学院大学ビジネス科学研究所、AGUビジネスレビュー3号に掲載していることから、ここでは概略を述べる。IT概論については、令和5年2月21日付け愛知県立岡崎商業高校学校設定科目、IT概論設置に関わる資料から述べるものとする。

なお、インターンシップと中国語は3年次科目であり、まだ開設されていないことから、資料が入手できず、ここでは割愛した。

1、岡崎学

1、この科目は、地域社会の健全で持続的な発展を目指し、生徒と教員が協働して取り組む、商業科の1年生の履修科目である。そこで、ビジネスを通じ地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人育成する視点から、ふるさと岡崎の歴史・自然・文化・産業などをより深く知り、よりよい岡崎にするために課題を発見し、解決案を提案する力を育み、岡崎市の魅力を再認識し、さらなる魅力を創造出来る岡崎学を構築する。

2、目標は、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会活動の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。(1) 岡崎の歴史・産業・まちづくりなどについて実務に即して体

系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(2) よりよい岡崎にするために課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。(3) 課題を発見し、解決策を提案する力の向上を目指して自らが学び、地域社会の健全で持続的な発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2、IT 概論

1、この科目は、現代社会のビジネスの様々な場面で活用されている IT について一連理解するために必要な資質・能力を育成し、IT 人材としての基本的知識・技能と実践能力を身に付けることにより情報社会の組織一員としての役割を果たすことを主眼としたものである。この視点から指導内容は 1、IT ワールドと 2、IT 戦略とマネジメントに大きく二分される。1、では、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ、データ構造とアルゴリズムを、2、は企業活動に関わる情報処理と技術および情報構築である。この科目を学ぶことにより、基本情報技術者等の資格取得の可能性は近づくものといえる。

2、目標はコンピュータ科学基礎、コンピュータシステム、システムの開発と運用、ネットワーク技術、データベース技術、セキュリティ、マネジメントなど、高度な IT 人材として必要な基本知識・技能と、実践的な活用能力を育てる。

(1) 企業活動における情報技術の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 企業活動における情報技術の活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3) 情報化社会に適応する力の向上を目指して自ら学び、企業活動における情報技術の活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

目標は、現在、コンピュータを中心とした社会の発展は著しい、ビジネス、企業活動もその流れの中にある。そこで、コンピュータ・IT に関わるハードウェア、ソフトウェアをはじめ、利用上の技術、開発運用、対応に対応するために、企業のマネジメント、ビジネスに関わる高度な人材としての基本知識・技能と、実践できる活用能力を身に付けるとしている。

(1) は 2 つのことが述べられている。1 は、現在の企業活動における情報技術活用の実務を把握し、それに即した体系的・系統的理解である。2 は、1 に関連する技術を身に付けていく。

(2) も (1) 同様に 2 つのことが述べられている。1 は、企業の活動における情報技術の活用に関する課題の発見であり、2 は、その見出したものを、ビジネスに関わる者として科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養うとしている。(3) も上記同様に 2 つのことが述べられ、1 は、企業活動のみではなく、マクロ的に情報化社会全体を見通し、それに適応する能力の向上を目指し自らが学ぶ、2 は、1 で学んだものをミクロ的な企業活動に結びつけ情報技術の活用を自ら、さらに協働的に取り組む態度を養うものとしている。

高等学校商業科の目標と同様、この科目は育成を目指す資質・能力を知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の三つの柱で整理し、それぞれに整理された目標を (1)、(2)、(3) に位置付けている。

2. 4 評価の観点

2. 4. 1 学習指導要領による評価の観点

2.4.1.1 学校教育法と平成 30 年告示高等学校学習指導要領による評価

学習評価について、学校教育法第 30 条第 2 項では、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならないとしている。

平成 30 年告示高等学校学習指導要領第 1 章第 3 款 2 学習評価の充実によれば、①生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。②創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取り組みを推進するとともに、学年や学校段階を超えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫することと述べている。

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説総則編によれば先述の①と②について以下の如く、詳細な配慮事項が 4 章 2 節にてなされている。

①学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものである。生徒にどういった力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。評価に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることなく、教師が生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように、評価を行うことが大切である。実際の評価においては、各教科等の目標の実現に向けた学習の状況を把握するために、指導内容や生徒の特性に応じて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の過程の適切な場面で評価を行う必要がある。その際には、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視することが大切である。特に、他者との比較ではなく生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることも重要である。また、教師による評価とともに、生徒による学習活動としての相互評価や自己評価などを工夫することも大切である。相互評価や自己評価は、生徒自身の学習意欲の向上にもつながることから重視する必要がある。今回の改訂では、各教科等の目標を資質・能力の三つの柱で再整理しており、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において、目標に準拠した評価を推進するため、観点別評価について、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の 3 観点に整理することが提言されている。その際、ここでいう知識には、個別的事実的な知識のみではなく、それらが相互に関連付けられ、更に社会の中で生きて働く知識となる

ものが含まれている点に留意が必要である。また、資質・能力の三つの柱の一つである学びに向かう力、人間性等には①主体的に学習に取り組む態度として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることにも留意する必要がある。このような資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。

②創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。学習評価の実施に当たっては、評価結果が評価の対象である生徒の資質・能力を適切に反映しているものであるという学習評価の妥当性や信頼性が確保されていることが重要である。また、学習評価は生徒の学習状況の把握を通して、指導の改善に生かしていくことが重要であり、学習評価を授業改善や組織運営の改善に向けた学校教育全体の取組に位置付けて組織的かつ計画的に取り組むことが必要である。このため、学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、例えば、評価規準や評価方法等を明確にすること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を蓄積し共有していくこと、授業研究等を通じ評価に係る教師の力量の向上を図ることなどに、学校として組織的かつ計画的に取り組むことが大切である。更に、学校が保護者に、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果についてより丁寧に説明したりするなどして、評価に関する情報をより積極的に提供し保護者の理解を図ることも信頼性の向上の観点から重要である。また、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるようにすることは、学習評価の結果をその後の指導に生かすことに加えて、生徒自身が成長や今後の課題を実感できるようにする観点からも重要なことである。このため、学年間で生徒の学習の成果が共有され円滑な接続につながるよう、指導要録への適切な記載や学校全体で一貫した方針の下で学習評価に取り組むことが大切である。更に、今回の改訂は学校間の接続も重視しており、進学時に生徒の学習評価がより適切に引き継がれるよう努めていくことが重要である。例えば、法令の定めに基づく指導要録の写し等の適切な送付に加えて、今回の改訂では、特別活動の指導に当たり、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動を行うこととし、その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用することとしており（第5章特別活動第2〔ホームルーム活動〕3（2））、そうした教材を、学校段階を越えて活用することで生徒の学習の成果を円滑に接続させることが考えられる。

さらに、指導と評価の一体化の必要性の明確化が示された。学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものであり、生徒に必要な資質・能力を効果的に育成するためには、教科等の目標及び内容と学習評価とを一体的に検討することが重要とし、平成30年告示高等学校学習指導要領において、学習評価の充実について新たに項目が置かれ、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくこと、指導と評価の一体化の必要性が明示され、

各教科等の目標、内容の記述を、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の資質・能力の3つの柱で再整理し、評価はこの3点を中心に行うことになった。

高等学校学習指導要領第1章第3款では、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善において、高等学校学習指導要領第1款の3の(1)から(3)までに示す、(1)知識及び技能が習得されるようにすること、(2)思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3)学びに向かう力、人間性等を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科・科目等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ることとしている。

さらに、学習指導要領の各教科、科目の目標に照らし、観点別学習状況の評価と評定を行うとしている。改善通知や今回の学習指導要領の改訂においても、従前から行われてきたとおり、学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価と、これらを総括的に捉える評定の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施する。

また、高等学校における観点別学習状況の評価を更に充実させ、その質を高める観点から、令和4年度以降の新入学生徒の指導要録に、従来の評定、修得単位数に加えて、各教科・科目の観点別学習状況の欄が新設された。

各教科の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価は、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な指導や学習の改善に生かすことを可能とした。観点別学習状況の評価を総括的に捉える評定は、どの教科の学習に望ましい学習状況が認められ、どの教科の学習に課題が認められるのかを明らかにすることにより、教育課程全体を見渡した学習の状況の把握と指導や学習の改善に生かすことを可能とした。

2.4.1.2 高等学校学習指導要領と小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（以下改善通知と略す）による教科の目標と評価。

商業科の目標と評価、高等学校学習指導要領と改善通知では、教科の目標と評価について次のように述べている。

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。目標を以下(1)(2)(3)に纏めている。

(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け

るようにする。

(2) ビジネスに関する課題を発見、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

つづいて、評価を以下(1)(2)(3)に纏めている。

(1) 知識・技術 商業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

(2) 思考・判断・表現 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

以上から、目標からの評価の観点を整理すると、(1) ①目標：理解する、評価：理解している、②目標：身に付けるようにするは、評価：身に付けている、(2) 目標：養うは、評価：身に付けている、(3) 目標：養うは、評価：身に付けていると明確にしている。

2.4.1.3 商業科改訂の要点と改善

高等学校学習指導要領の商業科改訂の要点と評価の改善は、商業編解説によれば、教科及び科目の目標については、周知のように、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて三つの柱に沿って整理し、育成を目指す資質・能力のうち、(1)には知識及び技術を、(2)には思考力、判断力、表現力等を、(3)には学びに向かう力、人間性等を示しているとし、商業科の目標の主な改善点としては次の四点が挙げられる。

第一に、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して資質・能力の育成を目指すようにすることから、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを示した。また、商業科で育成を目指す人材像を、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人とし、そのような職業人として必要な資質・能力の育成を目指すことを示した。

第二に、ビジネスに関する個別の事実的な知識、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず、それらが相互に関連付けられるとともに、具体的なビジネスと結び付くなどした、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識、技術などを身に付けるようにすることから、商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにすることを示した。

第三に、唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、地域産業をはじめとする経済社会が健全で持続的に発展する上での具体的な課題を発見し、単に利益だけを優先するのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養うことから、ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏

まえ合理的かつ創造的に解決する力を養うことを示した。

第四に、職業人に求められる倫理観などを育み、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的に学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識し、他者と積極的に関わるなどして、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことから、職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを示した。

各科目の目標については、教科の目標を踏まえるとともに、ビジネスで必要とされる資質・能力を見据えて改善を図っている。

学習指導要領商業編解説第1章総説第3節によれば、以下の如く、詳細な商業科の目標の解説が述べられている。

商業科においては、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を育成してきた。今回の改訂では、こうしたことを踏まえ、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなど通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成を目指すことを教科の目標に示した。

また、経済のグローバル化、情報技術の進歩など経済社会を取り巻く環境が大きく変化する中であって、必要とされる専門的な知識、技術などが変化するとともに、高度化してきていることから、育成を目指す資質・能力について、改めてビジネスで求められる資質・能力を見据えて三つの柱に沿って整理し、(1)には知識及び技術を、(2)には思考力、判断力、表現力等を、(3)には学びに向かう力、人間性等を示している。

1 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成するについて。

商業の見方・考え方とは、企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けることを意味している。実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通してとは、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成するため、見通しをもって実験・実習などを行う中で様々な成功と失敗を体験し、その振り返りを通して自己の学びや変容を自覚し、キャリア形成を見据えて学ぶ意欲を高める、産業界関係者などとの対話、生徒同士の討論といった自らの考えを広げ深める、様々な知識、技術などを活用してビジネスに関する具体的な課題の解決策を考案するなどの学習活動を行うことを意味している。ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力とは、単に利益だけを優先するのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響などに責任をもちながら、様々な経営資源を最適に組み合わせるとともに、他者とコミュニケーションを図るなどして、生産者、消費者などをつなぎ、地域産業をはじめ経済社会が健全で持続的に発展するよう、組織の一員としての役割を果たす資質・能力を意味している。商業科が育成を目指す職業人としては、例えば、流通業、金融業等を担う人材、製造業、サービス業等様々な業種における販売、仕入、営業、マーケティ

ング、企画、人事、経理、原価管理、情報等の部門に関わる職の担当者などが挙げられる。さらに、商業の学びを継続するなどして公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、ファイナンシャル・プランナー、旅行業務取扱管理者等の資格職に就くこと及び商業の学びを基盤として経験を積み管理的立場の職に就くことも目指している。このほかにも、商業の学びは汎用性の高いものであることから、それを生かすことができる業種や職種には様々なものが考えられる。

2、(1)の商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにするについて。

商業の各分野とは、高等学校における商業に関する学習内容を体系的に分類した学習分野であるマーケティング分野、マネジメント分野、会計分野、ビジネス情報分野を意味している。体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにするとは、ビジネスに関する個別の事実的な知識、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず、それらが相互に関連付けられるとともに、具体的なビジネスと結び付くなどした、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術、将来の職業を見通して更に専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにすることを意味している。このような知識と技術を身に付けるためには、ビジネスに関する理論について実験などにより確認する学習活動、ビジネスに関する新聞記事やニュースなどについて知識と技術を総合的に活用して生徒自らが解説する学習活動、ビジネスに関する知識をビジネスの具体的な事例と関連付けて考察する学習活動、商業の学習と職業との関連について理解を深める学習活動などが大切である。

3、(2)のビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養うについて。

ビジネスに関する課題を発見しとは、商業の各分野などの学習を通して身に付けた様々な知識、技術などを活用し、ビジネスの実務における課題など地域産業をはじめとする経済社会が健全で持続的に発展する上での具体的な課題を発見することを意味している。職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養うとは、社会の変化が加速し、将来の予測が困難で唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、単に利益だけを優先するのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題を解決する力を養うことを意味している。このような力を養うためには、実際のビジネスを俯瞰かんする中で、ビジネスに関する知識と技術のみならず、様々な教科・科目等で身に付けた知識、技術などを活用し、ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動が大切である。また、具体的なビジネスの場面を想定し、ビジネスを担う当事者としての意識を高め、経済や市場の動向、ビジネスに関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて多面的・多角的に分析し、考察や討論を行い、課題の解決策を考案し、評価・改善する学習活動などが大切である。さらに、地域の資源を活用した商品開発、地域産業の振興策や情報技術を活用した合理的なビジネスを展開する方策の考案・提案と評価・改善、商標やパッケージデザインの考案と評価・改善、ビジネスに関するウェブページの制作などを行う学習活動、模擬的な企業経営

や取引先の開拓など実際のビジネスに即した体験の中で発生する様々な課題に対して試行錯誤しながら課題を解決していく学習活動などが大切である。

4、(3) の職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うについて。

職業人として必要な豊かな人間性を育みとは、社会の信頼を得て、ビジネスを展開する上で必要な職業人に求められる倫理観、ビジネスを通して社会に貢献する意識などを育むことを意味している。よりよい社会の構築を目指して自ら学びとは、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的に学ぶ態度を意味している。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うとは、文化、商慣習、考え方の違いなどを踏まえる、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもつ、他者と信頼関係を構築する、他者とコミュニケーションを図って積極的に関わり、リーダーシップを発揮するなどして、企業を社会的存在として捉えて法規などに基づいてビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。このような態度などを養うためには、他者との討論により課題の解決策の考案などを行う学習活動、他者の考えに耳を傾け、対立する意見であってもそれを踏まえながら自己の考えを整理し伝える学習活動、地域を学びのフィールドとして、様々な職業や年代の地域住民などつながりを持ちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決などに取り組む学習活動、職業資格の取得やコンクールへの挑戦などを通して自ら学ぶ意欲を高める学習活動などが大切である。なお、職業資格の取得やコンクールへの挑戦については、目的化しないよう留意して取り扱うことが重要である。

以上、商業科の目標の主な改善点として四点を挙げ、ビジネスで求められる資質・能力を見据えて三つの柱に沿って整理し、(1) には見える学力、知識及び技術を、(2) には見えにくい学力、思考力、判断力、表現力等を、(3) には見えない学力、学びに向かう力、人間性等を示したといえる。

ところで、今回の高等学校学習指導要領改定は資質・能力の非認知能力にまで踏み込んでいるといえよう。また、評価と指導の一体化により、教科の目標を定め、それを基準とし評価を行い、さらに観点別、個人内評価を進めていることであろう。また、評価する側の一個人としての私的評価ではなく、誰にでもわかる透明性、公平性、平等性を基本として評価基準を設定し、さらに、多面的・多角的側面まで含めたことが、今回の改定の特徴といえる。

2. 4. 2 実際の運用

表 2-3 に評価の観点の実践例を示す。

表 2-3 商業科（簿記）学習指導案例

商業科「簿記（4単位）」学習指導案		6 本時の学習																																																																				
愛知県立岡崎商業高等学校 教科指導 ×××× 指導者 ××××		(1)本時の学習内容																																																																				
1 日 時 令和 5 年 6 月 14 日（水）第 6 限目 14 時 25 分から 15 時 15 分まで		指導内容 決算における精算表の作成																																																																				
2 場 所 1 年 1 組 教室		学習内容 指導内容と同じ																																																																				
3 学 年・組 1 年 1 組 40 名		(2)本時の概要（目標）																																																																				
4 教材・教具 教科書：「高校簿記（実教出版）」 副教材：「簿記検定問題集 全商 3 級（実教出版）」		1. 決算整理仕訳を精算表に記入することができるようになる。 2. 損益計算書および貸借対照表の適切な欄に金額を記入することができるようになる。 3. 精算表を締め切ることができるようになる。																																																																				
5 単元計画 (1)単元名 「第 12 章 6 節 8 桁精算表」 (2)単元概要（目標）		(3)本時の授業展開 (○…「記録に残す評価」、●…「指導に生かす評価」)																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">何ができるようになるのか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">1. 決算整理仕訳を精算表に記入すること。 2. 損益計算書および貸借対照表の適切な欄に金額を記入すること。 3. 精算表を締め切ること。</td> </tr> <tr> <th>何を学ぶのか</th> <th>どのように学ぶのか</th> </tr> <tr> <td>1. 精算表の記入手順を学ぶ。 2. 精算表の締め切りを学ぶ。</td> <td>1. 解説を開き、精算表の記入方法を知る。 2. 実際に問題を解き、理解を確認する。 3. 発表の場で理解を再確認する。</td> </tr> </tbody> </table>		何ができるようになるのか		1. 決算整理仕訳を精算表に記入すること。 2. 損益計算書および貸借対照表の適切な欄に金額を記入すること。 3. 精算表を締め切ること。		何を学ぶのか	どのように学ぶのか	1. 精算表の記入手順を学ぶ。 2. 精算表の締め切りを学ぶ。	1. 解説を開き、精算表の記入方法を知る。 2. 実際に問題を解き、理解を確認する。 3. 発表の場で理解を再確認する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>段 階</th> <th>学 習 内 容</th> <th>学 習 活 動</th> <th>観 点 評 価</th> <th>指 導 の 留 意 点 評 価 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">導 入</td> <td>1・挨拶</td> <td>・服装を整え、授業へと気持ちを切り替える。</td> <td></td> <td>・起立させ服装を整え、全員揃った挨拶をさせる。</td> </tr> <tr> <td>2・本時の内容</td> <td>・精算表について学ぶことを知る。目標を確認する。</td> <td></td> <td>・本時の概要と目標を口頭及び板書を用いて明確にする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">展 開</td> <td>5・仕訳を解く</td> <td>・復習である決算整理仕訳。問題集 p.105 の 25-4 を解く。</td> <td></td> <td>・机間指導を行い、決算整理仕訳ができていくか確認する。</td> </tr> <tr> <td>5・仕訳を確認</td> <td>・解答を黒板に記入する。</td> <td>C ○</td> <td>・黒板への記入を生徒に促し、挙手がない場合は指名する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">展 開</td> <td>3・残高試算表欄</td> <td>・板書を見ながら記入する。</td> <td></td> <td>・元帳勘定残高を記入すること。借方と貸方の各合計が一致することを確認させる。</td> </tr> <tr> <td>5・整理記入欄</td> <td>・板書を見ながら記入する。</td> <td></td> <td>・元帳勘定残高に無く、決算整理で新出する勘定科目を書き足すことがあることを伝える。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">展 開</td> <td>9・計算と記入</td> <td>・板書を見ながら記入する。 ・自ら考えながら解説を聞く。</td> <td>B ●</td> <td>・足し算または引き算、P/L または B/S、借方または貸方を発問（指名）し、正しく記入できているかを確認する。</td> </tr> <tr> <td>3・利益と損失</td> <td>・板書を見ながら記入する。</td> <td></td> <td>・P/L の収益の合計と費用の合計から、当期純損益を求めを確認させる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">展 開</td> <td>2・締め切り</td> <td>・板書を見ながら記入する。</td> <td></td> <td>・P/L と B/S の、当期純損益と借方貸方の合計が一致することを確認させる。</td> </tr> <tr> <td>13・問題演習</td> <td>・問題集 p.107 の 25-6 を解く。</td> <td>A ●</td> <td>・机間指導を行い、問題 25-6 が解けているかを確認する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ま と め</td> <td>1・質疑応答</td> <td></td> <td></td> <td>・個々に適した説明を行う。</td> </tr> <tr> <td>1・挨拶</td> <td>・再度服装等を整え挨拶をする。</td> <td></td> <td>・挨拶が終わるまで授業であることを意識させる。</td> </tr> </tbody> </table>		段 階	学 習 内 容	学 習 活 動	観 点 評 価	指 導 の 留 意 点 評 価 の ポ イ ン ト	導 入	1・挨拶	・服装を整え、授業へと気持ちを切り替える。		・起立させ服装を整え、全員揃った挨拶をさせる。	2・本時の内容	・精算表について学ぶことを知る。目標を確認する。		・本時の概要と目標を口頭及び板書を用いて明確にする。	展 開	5・仕訳を解く	・復習である決算整理仕訳。問題集 p.105 の 25-4 を解く。		・机間指導を行い、決算整理仕訳ができていくか確認する。	5・仕訳を確認	・解答を黒板に記入する。	C ○	・黒板への記入を生徒に促し、挙手がない場合は指名する。	展 開	3・残高試算表欄	・板書を見ながら記入する。		・元帳勘定残高を記入すること。借方と貸方の各合計が一致することを確認させる。	5・整理記入欄	・板書を見ながら記入する。		・元帳勘定残高に無く、決算整理で新出する勘定科目を書き足すことがあることを伝える。	展 開	9・計算と記入	・板書を見ながら記入する。 ・自ら考えながら解説を聞く。	B ●	・足し算または引き算、P/L または B/S、借方または貸方を発問（指名）し、正しく記入できているかを確認する。	3・利益と損失	・板書を見ながら記入する。		・P/L の収益の合計と費用の合計から、当期純損益を求めを確認させる。	展 開	2・締め切り	・板書を見ながら記入する。		・P/L と B/S の、当期純損益と借方貸方の合計が一致することを確認させる。	13・問題演習	・問題集 p.107 の 25-6 を解く。	A ●	・机間指導を行い、問題 25-6 が解けているかを確認する。	ま と め	1・質疑応答			・個々に適した説明を行う。	1・挨拶	・再度服装等を整え挨拶をする。		・挨拶が終わるまで授業であることを意識させる。
何ができるようになるのか																																																																						
1. 決算整理仕訳を精算表に記入すること。 2. 損益計算書および貸借対照表の適切な欄に金額を記入すること。 3. 精算表を締め切ること。																																																																						
何を学ぶのか	どのように学ぶのか																																																																					
1. 精算表の記入手順を学ぶ。 2. 精算表の締め切りを学ぶ。	1. 解説を開き、精算表の記入方法を知る。 2. 実際に問題を解き、理解を確認する。 3. 発表の場で理解を再確認する。																																																																					
段 階	学 習 内 容	学 習 活 動	観 点 評 価	指 導 の 留 意 点 評 価 の ポ イ ン ト																																																																		
導 入	1・挨拶	・服装を整え、授業へと気持ちを切り替える。		・起立させ服装を整え、全員揃った挨拶をさせる。																																																																		
	2・本時の内容	・精算表について学ぶことを知る。目標を確認する。		・本時の概要と目標を口頭及び板書を用いて明確にする。																																																																		
展 開	5・仕訳を解く	・復習である決算整理仕訳。問題集 p.105 の 25-4 を解く。		・机間指導を行い、決算整理仕訳ができていくか確認する。																																																																		
	5・仕訳を確認	・解答を黒板に記入する。	C ○	・黒板への記入を生徒に促し、挙手がない場合は指名する。																																																																		
展 開	3・残高試算表欄	・板書を見ながら記入する。		・元帳勘定残高を記入すること。借方と貸方の各合計が一致することを確認させる。																																																																		
	5・整理記入欄	・板書を見ながら記入する。		・元帳勘定残高に無く、決算整理で新出する勘定科目を書き足すことがあることを伝える。																																																																		
展 開	9・計算と記入	・板書を見ながら記入する。 ・自ら考えながら解説を聞く。	B ●	・足し算または引き算、P/L または B/S、借方または貸方を発問（指名）し、正しく記入できているかを確認する。																																																																		
	3・利益と損失	・板書を見ながら記入する。		・P/L の収益の合計と費用の合計から、当期純損益を求めを確認させる。																																																																		
展 開	2・締め切り	・板書を見ながら記入する。		・P/L と B/S の、当期純損益と借方貸方の合計が一致することを確認させる。																																																																		
	13・問題演習	・問題集 p.107 の 25-6 を解く。	A ●	・机間指導を行い、問題 25-6 が解けているかを確認する。																																																																		
ま と め	1・質疑応答			・個々に適した説明を行う。																																																																		
	1・挨拶	・再度服装等を整え挨拶をする。		・挨拶が終わるまで授業であることを意識させる。																																																																		
(3)単元の評価規準		(4)学習支援（評価Cへの手立て）																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【A】知識・技術</th> <th>【B】思考力・判断力・表現力</th> <th>【C】主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①問題集の該当箇所を解答できているか。</td> <td>①発問を求められた際に自分なりに表現できるか。</td> <td>①自ら発言できるか。</td> </tr> </tbody> </table>		【A】知識・技術	【B】思考力・判断力・表現力	【C】主体的に学習に取り組む態度	①問題集の該当箇所を解答できているか。	①発問を求められた際に自分なりに表現できるか。	①自ら発言できるか。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Cと判断する具体的状況</th> <th>学習支援の具体的内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問題演習の際、何も書かない（書けない）。</td> <td>全体の場ではなく個人的に直接声を掛け、学習と理解をサポートする。</td> </tr> </tbody> </table>		Cと判断する具体的状況	学習支援の具体的内容	問題演習の際、何も書かない（書けない）。	全体の場ではなく個人的に直接声を掛け、学習と理解をサポートする。																																																									
【A】知識・技術	【B】思考力・判断力・表現力	【C】主体的に学習に取り組む態度																																																																				
①問題集の該当箇所を解答できているか。	①発問を求められた際に自分なりに表現できるか。	①自ら発言できるか。																																																																				
Cと判断する具体的状況	学習支援の具体的内容																																																																					
問題演習の際、何も書かない（書けない）。	全体の場ではなく個人的に直接声を掛け、学習と理解をサポートする。																																																																					
(4)単元の指導及び評価計画		7 御高評																																																																				
指導時間 単元	各時間の指導内容	重点評価 記録に残す評価	評価方法 (※Bの基準)																																																																			
1	決算整理仕訳の復習 精算表とは 精算表の記入方法（手順） 精算表の締め切り	【A】① 【B】① 【C】①	【A】：机間指導 【B】：発問（指名） 【C】：発問（挙手） ※挙手して指名後、答えられる。																																																																			
2	精算表の記入の確認テスト 精算表の記入の演習問題	【A】① 【B】① 【C】①	【A】：机間指導 【B】：発問（指名） 【C】：発問（挙手） ※挙手して指名後、答えられる。																																																																			

新学習指導要領（平成 30 年告示）に則して作成した学習指導案例を用いて説明する。令和 4 年度から学習指導案を作成する際には、5 単元計画（2）単元概要（目標）の欄に、何ができるようになるのか、何を学ぶのか、どのように学ぶのかの 3 つの項目について目標を明記し、達成できるよう計画を立案することとしている。一時間の授業内で学ぶ内容、身に付ける内容を精査しアプローチを綿密に組み立てている。同時に単元の評価規準（3）について、A 知識・技術、B 思考力・判断力・表現力、C 主体的に学習に取り組む態度について考え、実践できるように的確な授業内容を考える必要がある。特に、C 主体的に学習に取り組む態度については、今回の改訂で最も強調されているところであり、主体的、対話的で深い学びに結びつく授業の展開が求められている。続いて（4）単元の指導及び評価計画では、重点評価の欄を用いて記録に残す評価を明記する。この実践例では C ①が記録に残す評価としていることから、具体的には、教員は生徒が自らすすんで挙手ができるような発問をし、回答させる機会をつくり、生徒の主体的に学習に取り組む態度を評価するように努めている。

具体的な授業展開については、6（3）本時の授業展開に記されている。学習内容、学習活動、観点、評価、指導の留意点の項目があり、今回の改訂で強調されている事項は、評価のポイントである。さらに、記録に残す評価、指導に生かす評価に分けることで、本時の授業だけでなく継続して生徒を観察する必要がある点に注目したい。例えば、展開段階では正しく記入できているかを確認（評価ポイント・指導に生かす評価）する。正しく記入できた場合、次の問題

に進み、そうでない場合は、指導方法の工夫、改善の機会として捉えることができる。まとめ段階の、問題 25-6 が解けているかを確認（評価ポイント・指導に生かす評価）も同様である。さらに、6（4）学習支援（評価 C への手だて）では、さまざまな場面を考え、生徒の学習状況や理解度を想定していることが窺える。生徒に対して具体的な学習支援を行うことは、生徒の意欲を湧き起こすとともに、生徒に何ができるようになったかを確認させ、次回の授業をどのように展開させていけばよいか等、教員にとっても多くのヒントが散りばめられている。

3. グランドデザインの検証

AGU ビジネスレビュー第 3 号¹で述べてきたように、これまで多くの日本企業では、終身雇用制度の下、一つの企業内でキャリアを積み重ねることが主流であった。しかし、現在では労働力人口の減少、生産性の向上、働き方の変容等転職したり起業したりすることでキャリアを積み重ね、自分らしい生き方を求めるようになった。そこで、愛知県立岡崎商業高等学校（以下本校とする）では、昨年度に続き、実践している教育課程や課題研究などの学びを通して自分らしい生き方を模索することとした。即戦力となる社会人の定義を広義にとらえると、社会から必要とされる能力や技術等をもっている人、その人物像は多岐にわたると考えられる。能力、技術等については職種により多様であるが、社会から求められている人物像は同じではないだろうか。本校生徒は卒業後、就職する生徒は 50%、大学、短大、専門学校等の上級学校へ進学する生徒は 50%である。社会人に必要な基礎学力や商業の専門知識を身に付ける教育課程、学校行事、部活動、資格取得等を通して、即戦力となる社会人の重要な要素である人間力、適応力、コミュニケーション能力を育成することを教育の柱とした。

表 3-1 にあるグランドデザイン 2021²を基軸に表 3-2 のグランドデザイン 2022³を構築し、何ができるようになるか、何を教えるか、どのように教えるか、という視点をすべての教職員が意識し、段階的に取り組むためのプランを共有し、行動に移すためのモチベーションを維持することが学校力の向上につながると考え、継続して実践することで学校全体の教育力を向上させることとした。

¹ 加藤千景，尾碕眞，吉田聡「ビジネス教育における効果的なグランドデザインに関する検証」AGU ビジネスレビュー第 3 号，愛知学院大学ビジネス科学研究所，2023 年 2 月，p.2。

² 同上，p.6。

³ 同上，p.28。

表 3-1 2021 岡商ブランドデザイン

岡商生が身につけたい「か・き・く・け・こ」 感動→興味→工夫→決断→行動→感動→興味→のサイクルを身につけよう		2021 岡商 GRAND DESIGN		
何 が で き る よ う に 教 え る か か	育てたい生徒像	身に付けたい資質・能力		
	即戦力となる社会人を育成する	人間力	適応力	
		利他の精神 ・感謝の心 ・チャレンジ精神	基礎学力 ・専門知識 ・創意工夫	
	岡商モットー 「土魂商才」 武士の精神（自分自身と向き合う強さ） 商人の知恵（利他の精神） を兼ね備えた人材の育成	コミュニケーション能力		
		・多様性を認め合える ・他人の話をしっかり聞き受け止める ・自分の意見を述べることができる		
	学年で一貫した取り組み	進路指導		
	1年 新しい環境への順応と自己理解 ・自発的な挨拶 ・学習習慣の確立と、自らの目標設定 ・時間厳守の精神の涵養	1年 自己を知る・人間関係を築く 「自己理解」「情報収集」	理科 科学的な知識や概念の定着と 科学的な見方や考え方を育成	保健 読書学習やグループ学習を通 じて、自分自身の健康につい て主体的に考え、行動できる 能力の育成
	2年 互いに認め合い、高め合える集団 ・お互い良い影響を与え合いながら成長できる環境づくり ・他者や集団のことを考えた思いやりのある行動 ・進路意識の向上と進路実現のための主体的な学び	2年 自分を磨く・職業や社会を知る 「挑戦」「情報選択」	外国語 言語活動を通して情報や異文 化を理解し、他者に伝えるた めのコミュニケーション能力 を育成	家庭 人の一生と生活全般に関す る知識、技術の育成 ・SDGsを意識できる態度の育 成
	3年 社会人になるための準備 ・基礎学力のアップと資格の取得 ・周囲への配慮した大人の言動 ・主体的な活動の実践	3年 社会での自分の役割を知る 「決心」「自己実現」	読書習慣・活字に触れる ・図書館便りの情報発信や様々な機会を通して読書習慣の育成（年間1人5冊以上の読書） ・ビブリオバトルを実施して読書の質の向上	
	道徳教育 特別活動 様々な声を聴き、取り入れみんなで作るコロナ禍の行事づくり	組織的な生徒指導 ・さわやかな挨拶を身につける⇒校門指導およびST、授業の前夜 ・社会人を意識した身だしなみと言動を身につける⇒学校生活全般		
清掃活動 清掃区域の問題点や改善点を認識し、清掃班の仲間とともに自発的に清掃活 動に取り組み	進路機関 ・岡崎女子大学短期大学、名古屋産業大学、青森科技大学（台湾）			
相談活動 他者を思いやる言動を心がけ、他者を認めることができる	PTA ・PTA総会、PTA通信の発行、岡商祭への協力依頼 同窓会 ・120周年行事の計画立案（2022年：120周年式典） 地域 ・学校評議員の委嘱、行事の協力の依頼、SDGsを意識した地域活動			
部活動 長所をみつめる・部・部活動	運動部 ソフトテニス（男女）・バスケットボール（男女） 新体操（女）・ソフトボール（女）・バレーボール（女） 卓球（女）・サッカー（女）	弓道（男女）・柔道（男女） 陸上競技（男女） 硬式野球・ハンドボール（女）	文化部 OKASHOP・情報処理・簿記・ワープロ	
岡商のブランド力（岡商ブランド向上委員会）の継続	制服、体操服、グラウンドコートの検討、岡商バッグを含む岡商グッズの見直し、岡商のソーシャルネットワーク、120周年（2022年）に向けた取組計画立案・実施			

表 3-2 2022 岡商ブランドデザイン

岡商生が身につけたい「か・き・く・け・こ」 感動→興味→工夫→決断→行動→感動→興味→のサイクルを身につけよう		2022 岡商 GRAND DESIGN		
何 が で き る よ う に 教 え る か か	育てたい生徒像	身に付けたい資質・能力		
	即戦力となる社会人を育成する	人間力	適応力	
		利他の精神 ・感謝の心 ・チャレンジ精神	基礎学力 ・専門知識 ・創意工夫	
	岡商モットー 「土魂商才」 武士の精神（自分自身と向き合う強さ） 商人の知恵（利他の精神） を兼ね備えた人材の育成	コミュニケーション能力		
		・多様性を認め合える ・他人の話をしっかり聞き受け止める ・自分の意見を述べることができる		
	学年で一貫した取り組み	進路指導		
	1年 "KIRATTO" 輝く生徒の育成 ・基礎学力の定着を固め、粘り強く学び続ける態度の育成 ・何事も自らしっかりと考え行動できる自律性の涵養 ・習得した知識を様々な場面で活用できる「活き活き力」の育成	1年 自己を知る・人間関係を築く 「自己理解」「情報収集」	理科 自然の事物・現象についての 理解を深め、科学的に探究す る力を養う	保健 自分自身の健康について主体 的に考え、行動できる能力の 育成
	2年 自他ともに認め合い高めあう環境づくり ・集団生活における協調性に富んだ態度の育成 ・自他の個性の尊重、理解と互いに認め合う環境の構築 ・進路選択の準備と明確な目標の設定	2年 自分を磨く・職業や社会を知る 「自己分析」「情報蓄積」	外国語 言語活動を通して情報や異文 化を理解し、他者に伝えるた めのコミュニケーション能力 を育成	家庭 人の一生と生活全般に関する 知識、技術の育成
	3年 新成人・社会人になるための準備 ・主体的な進路選択・進路実現のサポート ・成人としての責任の自覚と主体的で自立した行動の促 し ・学力の充実、検定取得、社会への関心の育成	3年 社会での自分の役割を知る 「自己実現」「情報選択」	読書習慣・活字に触れる ・図書館便りを通して情報発信をしたり、授業等を通じて読書習慣を身につけさせ、自ら考 えることができるよう育成	
	道徳教育 特別活動 様々な声を聴き、生徒と共に作り上げるコロナ禍の行事づくり	組織的な生徒指導 自立に向かう高校生らしい生活態度と、自律精神（心）の育成、基本的生活習慣の定着 多様性と規範・規律の調和を体現し、社会の一員として適切（ふさわしい）な行動ができる 態度の育成		
清掃活動 自主的に清掃にとり組み、清掃箇所においてどのような活動をすればさらに きれいになるかをそれぞれが考えて行動する	進路機関 ・岡崎女子大学短期大学、名古屋産業大学、青森科技大学（台湾）			
相談活動 自分自身の言動が他者にどのように映るかを考え、他者を思いやる言動ができ	PTA ・PTA総会、PTA通信の発行、岡商祭への協力依頼 同窓会 ・120周年式典（2022年11月11日） 地域 ・学校評議員の委嘱、行事の協力の依頼、SDGsを意識した地域活動			
部活動 長所をみつめる・部・部活動	運動部 ソフトテニス（男女）・バスケットボール（男女） 新体操（女）・ソフトボール（女）・バレーボール（女） 卓球（女）・サッカー（女）	弓道（男女）・柔道（男女） 陸上競技（男女） 硬式野球・ハンドボール（女）	文化部 OKASHOP・情報処理・簿記・ワープロ	
120周年に向けた取組等	清潔感あふれる高校生らしい装い、充実した岡商生のライフスタイルの構築、1人1台タブレットの充実活用、120周年（2022年）記念式典の開催 SDGsへの取組、西三河を繋げる商品開発、あいちらーニング推進事業(R4.5)、金融教育研究校(R4.5)、地域協働ビジネススキルアップ事業（R3.4）			

3. 1 高校3年生を対象としたアンケートの実施

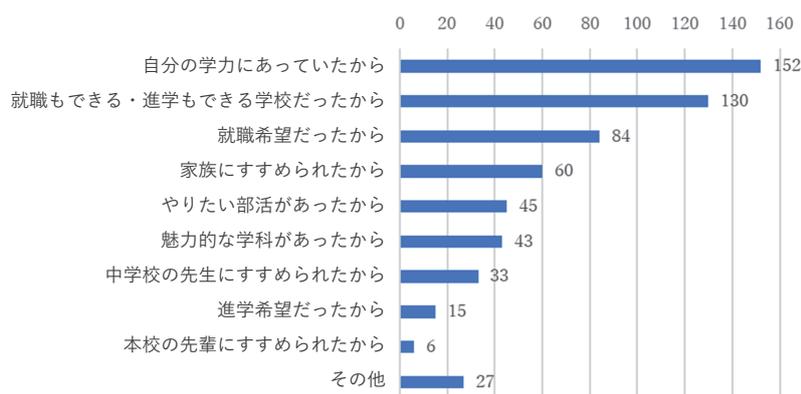
令和5(2023)年2月、卒業前に3年生に対してアンケートを実施した。2022岡商グランドデザインの目標である即戦力となる社会人に近づくことができたか分析し、考察する。昨年度のアンケートと同様の内容であることから、経年比較していくこととした。

(1) 商業高校へ進学した理由

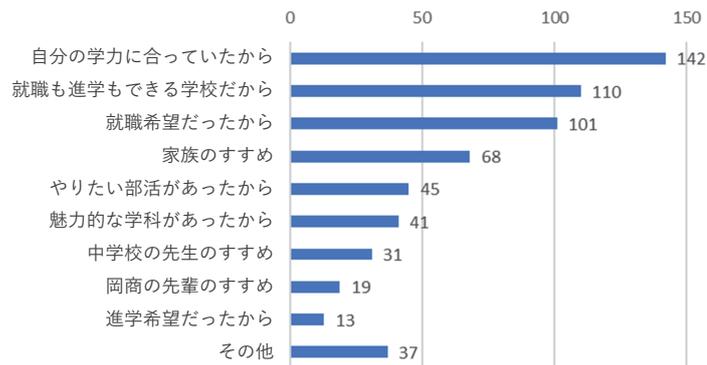
本校へ進学した理由について表3-3、図3-1でまとめた。もっとも多かった理由は、自分の学力にあっているからが全体の23%(R3年度:26%)であった。次に、就職もできる・進学もできる学校だったからが18%(R3年度:22%)、続いて、就職希望だったからが17%(R3年度:14%)、家族のすすめがあったからは11%(R3年度:10%)であった。令和2年度は就職希望だったからが29%であり年々減少傾向にあることがわかる。

表 3-3 進学した理由の集計

進学した理由	R3年度 3年生	R4年度 3年生
自分の学力にあっていたから	152	142
就職もできる・進学もできる学校だったから	130	110
就職希望だったから	84	101
家族にすすめられたから	60	68
やりたい部活があったから	45	45
魅力的な学科があったから	43	41
中学校の先生にすすめられたから	33	31
進学希望だったから	15	13
本校の先輩にすすめられたから	6	19
その他	27	37



(a) 令和3年度 3年生の入学時



(b) 令和4年度 3年生の入学時

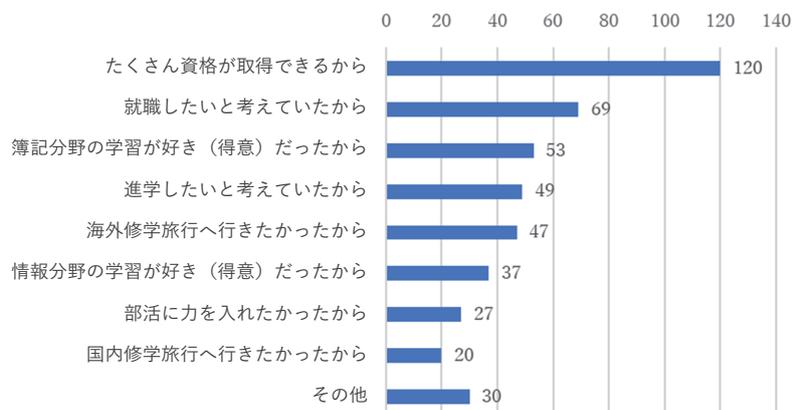
図 3-1 商業高校へ進学した理由について

(2) 学科を選んだ理由

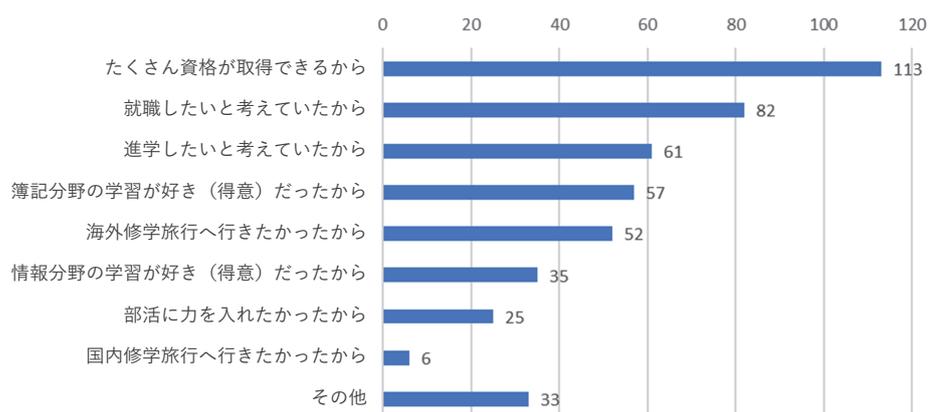
1年生で履修・修得した専門科目の学びを深めるために、2年生から学科に分かれ、発展的な内容を学習している。学科を選んだ理由を表3-4、図3-2にまとめた。それぞれの学科を選んだ理由は、たくさん資格が取得できるからが最も多く24%（R3年度：27%）を占めていた。令和2年度の同項目は20%であった。次に多かったのは就職したいと考えていたからが18%（R3年度：15%）、続いて、進学したいと考えていたからが14%（R3年度：11%）であった。

表 3-4 学科を選んだ理由の集計

学科を選んだ理由	R3年度	R4年度
たくさん資格が取得できるから	120	113
就職したいと考えていたから	69	82
簿記分野の学習が好き（得意）だったから	53	57
進学したいと考えていたから	49	61
海外修学旅行へ行きたかったから	47	52
情報分野の学習が好き（得意）だったから	37	35
部活に力を入れたかったから	27	25
国内修学旅行へ行きたかったから	20	6
その他	30	33



(a) 令和3年度 3年生の学科選択時



(b) 令和4年度 3年生の学科選択時

図 3-2 学科を選んだ理由について

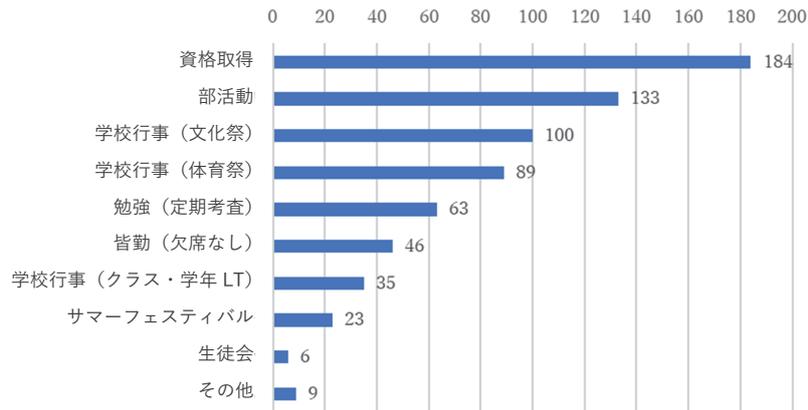
(3) 高校生活を通して良い影響を与えたもの

令和4年度から、遠足・修学旅行の項目を追加した。大流行している新型コロナウイルス感染症が収束に向かっている状況の下、遠足、修学旅行を学校行事として再開したことを受けて調査項目に加えた。表 3-5 および図 3-3 のように集計し学校の魅力について考察する。最も多い回答だったのは、資格取得 22%（R3 年度：27%）であった。次に多い回答は、部活動 18%（R3 年度：19%）であり、続いて学校行事（文化祭）15%（R3 年度：13%）であった。遠足・修学旅行は 11%であり、良い影響を与えているものとして位置づけられる。これらのアンケート結果から、高校生活を通して学校行事等により生徒の心身を成長、充実させていることが窺える。

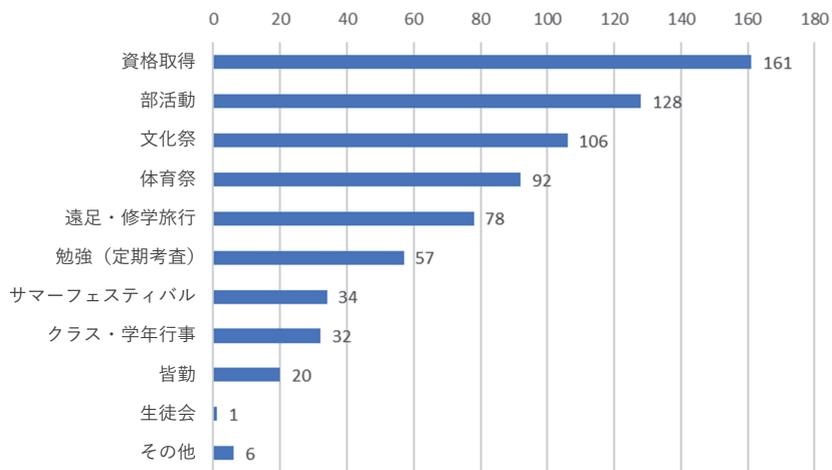
表 3-5 高校生活を通して良い影響を与えたもの

計画されている行事等	R3年度	R4年度
資格取得	184	161
部活動	133	128
学校行事（文化祭）	100	106
学校行事（体育祭）	89	92
遠足・修学旅行	—	※78
勉強（定期考査）	63	57
皆勤（欠席なし）	46	20
学校行事（クラス・学年LT）	35	32
サマーフェスティバル	23	34
生徒会	6	1
その他	9	6

※令和4年度のアンケートより項目を追加した。



(a) 令和3年度 3年生



(b) 令和4年度 3年生

図3-3 高校生活を通して良い影響を与えたもの

(4) 2022 岡商グランドデザインの目標達成状況 (3年生)

表3-6にグランドデザインの目標達成状況を目標項目別としてまとめた。この目標は社会に必要とされる要素の16の項目について、日々努力を積み重ねている状況を評価1~4の段階評価を行った結果である。評価1は、努力不足であまり身に付いていない、評価2は、時々実践しているがまだ不十分、評価3は、時々実践し、少し身に付いたと感じる、評価4は、日頃から実践し、身に付いたと感じる、の4段階で評価させた。この基準に従うと項目内容は評価点置き換え可能なアンケートになり、最高点が4点、最低点が1点、平均値は2.5点となる。令和4年度3年生の生徒(本アンケート回答生徒)の評価平均値の伸び率が最も高かったのは、読書習慣であり1年生の時点から0.5ポイント上昇した。進路意識の向上とともにデジタル書籍を含む読書の必要性を感じたと推察する。また、次に高い伸び率であったのは、自分の意見を述べる、社会人になるための準備(言葉遣い・マナー)は1年生の時点からそれぞれ0.4ポイント上昇した。特に、人の話をしっかり聞き受け止めるは、アンケートの回答で評価1を選択した生徒は一人もいなかった。このことから、コミュニケーション力が身につ

いたと分析でき、グランドデザインの目標を一部達成したともいえる。一方、入学時より伸びていないのは、伸び率が0ポイントの基礎学力であることが分かった。専門科目に力を入れると同時に基礎学力を身に付ける方策を考えていく必要があり、喫緊の課題である。

表 3-6 グランドデザインの目標達成状況（3年生）の推移

目標項目	評価				評価平均値※
	1	2	3	4	
利他の精神	2	33	99	125	3.3 (3.1)
感謝の心	4	14	60	182	3.6 (3.5)
チャレンジ精神	9	75	118	58	2.9 (2.7)
基礎学力	21	98	109	30	2.6 (2.4)
専門知識	11	55	121	72	3.0 (2.7)
創意工夫	17	90	115	38	2.7 (2.4)
自分の意見を述べる	15	80	119	45	2.7 (2.5)
人の話をしっかり聞き受け止める	0	27	130	102	3.3 (3.1)
多様性を認め合う	5	44	115	95	3.2 (2.9)
岡商生のかきくけこ	15	68	139	37	2.8 (2.5)
社会人になるための準備	4	45	120	89	3.1 (2.9)
読書習慣	101	72	48	38	2.1 (2.0)
さわやかな挨拶	7	45	109	98	3.2 (2.9)
社会人を意識した身だしなみ	6	37	129	87	3.1 (3.0)
主体的な行動力	11	49	135	63	3.0 (2.8)
地域との協力	56	93	83	27	2.3 (2.1)

※（ ）は令和3年度、同生徒が2年生3月時点の評価平均値である。

(5) 卒業後の進路

卒業後の進路選択は、生徒の将来のキャリア設計に大きな影響を与える。表3-7と図3-4より、年々就職者が減少し進学者が増加していることが分かる。専門学科で学んだ知識を活かして、さらなる専門的なスキルを身につけることができる専門学校への進学は、全体の31%（R3年度：24%）を占めていた。四大、短大への進学は、全体の17%（R3年度：24%）の割合であることから、卒業後学び続けることへの積極的な研究態度を培う必要性を感じている生徒は一定数いる。今後も、進学もできる・就職もできるといった高校時代の学びの魅力は確実に浸透し、進路選択の幅も拡充していくといえよう。

表 3-7 卒業後の進路

	就職	四大	短大	専門学校	フリーター	未定
令和2年度	182	21	12	61	1	5
令和3年度	133	47	16	62	1	5
令和4年度	130	33	13	82	3	3

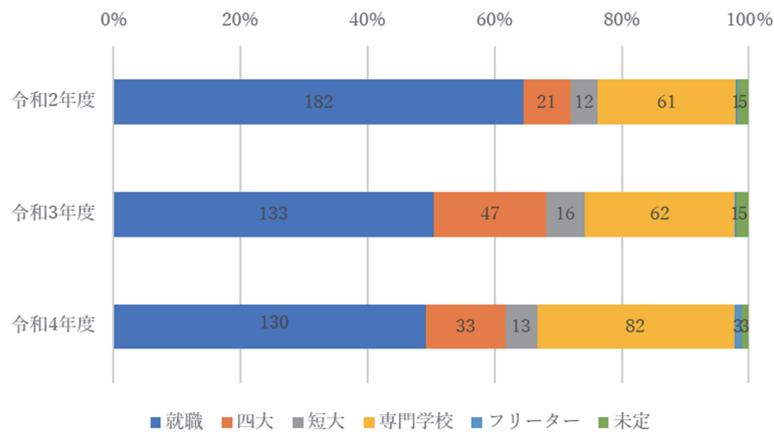


図 3-4 卒業後の進路

(6) 岡商への評価

記述式の解答欄に、各生徒が本校を評価し 100 点満点中の得点で記入した。ただし 60 点を平均とすると明記した。その結果、100 点満点中、67.8 点 (R3 年度：67.9 点) が評価平均点であった。同じ生徒が 2 年生の時の評価は 58.8 点であった。加えて、自由記述欄には概ね好意的な内容が記入されていた。一例をあげると、専門科目の授業を増やしてほしい、タブレット端末が便利である、校則がゆるい、厳しい、学校行事が楽しい、つまらない等、とさまざまな記述があった。これらの率直な意見を参考にしながら、われわれ教職員は、バランスのとれた教育活動を実践し、学校生活が楽しいと感じる学校行事等を計画し、短長期的な課題に取り組んでいくことが涵養であると考えている。

3. 2 高校 2 年生および高校 1 年生を対象としたアンケートの実施

(1) 選択した学科

入学時は、全科共通で学習を開始する。1 年生の 3 学期に、生徒自身が進む学科を決定する。令和 4 年度、表 3-8 で示したように 2 年生は、国際ビジネス科は 2 学級 (74 名)、情報処理科 2 学級 (74 名)、総合ビジネス科 2 学級 (76 名)、情報会計科 2 学級 (79 名) で構成されている。なお、令和 4 年度から 40 名の定員増となり、総合ビジネス科を 1 クラス増加した。

表 3-8 学科選択の状況

	1 年生 (R 4 年度)	2 年生 (R 3 年度)	3 年生 (R 2 年度)
国際ビジネス科	74	80	78
情報処理科	74	77	80
総合ビジネス科	76	34	37
情報会計科	79	67	73

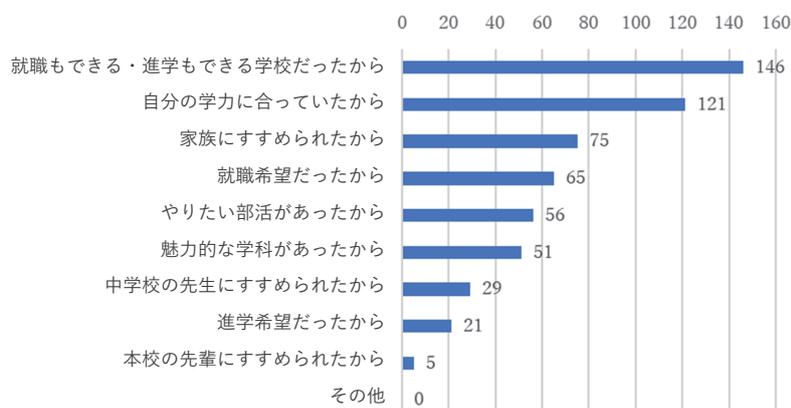
(2) 本校へ進学した理由（1年生のみ）

令和4年度入学生に対して本校を選んだ理由が表3-9および図3-5から分かる。最も多かった回答は、就職もできる・進学もできる学校だったから、自分の学力に合っていたからがそれぞれ23.3%であった。次に多かった回答は、就職希望だった11.4%であった。続いて、家族にすすめられたからが11.1%、魅力的な学科があったからは9.8%であった。その他の38名は、資格が取れるから、家が近いからなどの理由が記述されていた。魅力的な学科があったから、を選んだ67名の生徒は本校の学習内容や教育目標に興味・関心を抱いて入学してきていることが分かる。

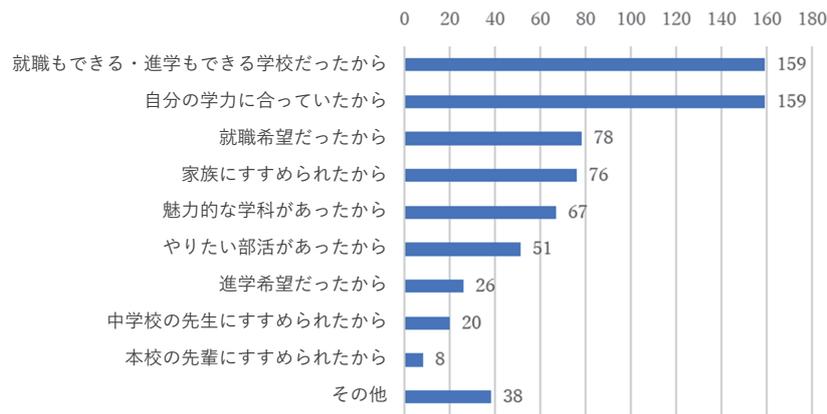
表 3-9 本校へ進学した理由

進学した理由	R3年度入学生	R4年度入学生
就職もできる・進学もできる学校だったから	146	159
自分の学力に合っていたから	121	159
家族にすすめられたから	75	76
就職希望だったから	65	78
やりたい部活があったから	56	51
魅力的な学科があったから	51	67
中学校の先生にすすめられたから	29	20
進学希望だったから	21	26
本校の先輩にすすめられたから	5	8
その他	0	38

◇令和4年度より募集生徒数が320名（8クラス）に増加している



(a) 令和3年度



(b) 令和4年度

図 3-5 本校へ進学した理由

(3) 高校生活を通して良い影響を与えたもの

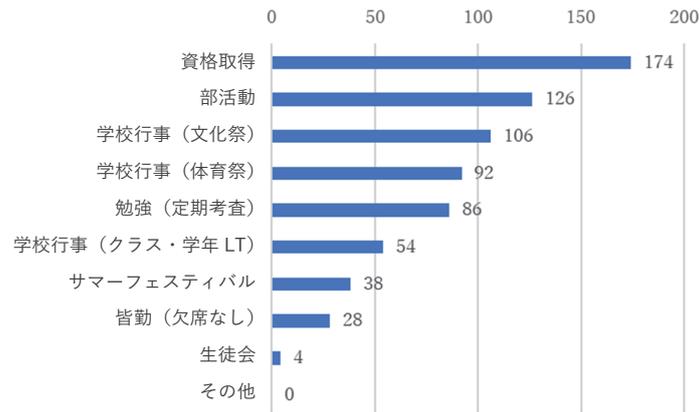
令和4年度から、遠足・修学旅行の項目を追加した。コロナウイルス感染症の収束にともない、遠足、修学旅行を学校行事として再開したことを受けて調査項目に加えた。生徒から得た回答を表3-10および図3-6のようにグラフ化し学校の魅力について考察する。まず、1年生のアンケート結果から、最も多い回答だったのは、資格取得 22.6% (R3年度:24.6%)であった。次に多い回答だったのは、学校行事(文化祭) 17.1% (R3年度:15%)、部活動 16.2% (R3年度:17.8%)を通して、高校生活を充実させていることが分かった。一方、遠足は4.4%に留まっていることから、1年生の行事としての位置づけを再検討する必要がある。

表 3-10 高校生活を通して良い影響を与えたもの(1年生)

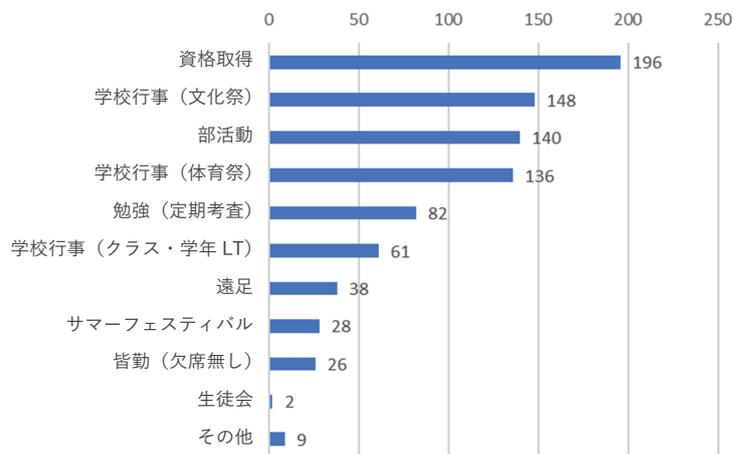
計画されている学校行事等	R3年度1年生	◇R4年度1年生
資格取得	174	196
部活動	126	140
学校行事(文化祭)	106	148
学校行事(体育祭)	92	136
勉強(定期考査)	86	82
学校行事(クラス・学年L T)	54	61
遠足	—	※38
サマーフェスティバル	38	28
皆勤(欠席なし)	28	26
生徒会	4	2

※令和4年度より項目に追加した。

◇令和4年度より募集生徒数が320名(8クラス)に増加している。



(a) 令和3年度 1年生



(b) 令和4年度 1年生

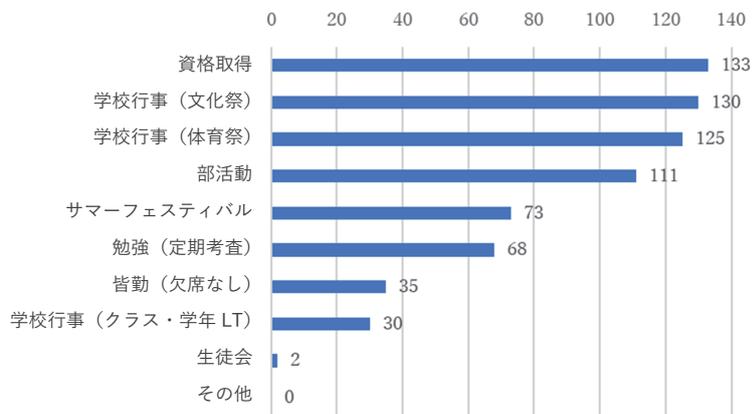
図 3-6 高校生活を通して良い影響を与えたもの (1年生)

2年生のアンケート結果では、同様の質問に対して表 3-11 と図 3-7 から分かるが、最も多い回答であったのは、遠足・修学旅行 18.9%、次いで資格取得 17.3%、部活動 14.2%であった。2年生の最大行事である修学旅行を再開し、学校外での活動から知見を広め、友人たちと寝食を共にすることでクラスメイトとの絆が一層深まり、良い影響を与えたと推察する。また、2年生で高度な資格取得を目指したり、所属する部の中心的な役割を担う活動をすることは、高校生活を通して良い影響を与えていることが分かる。

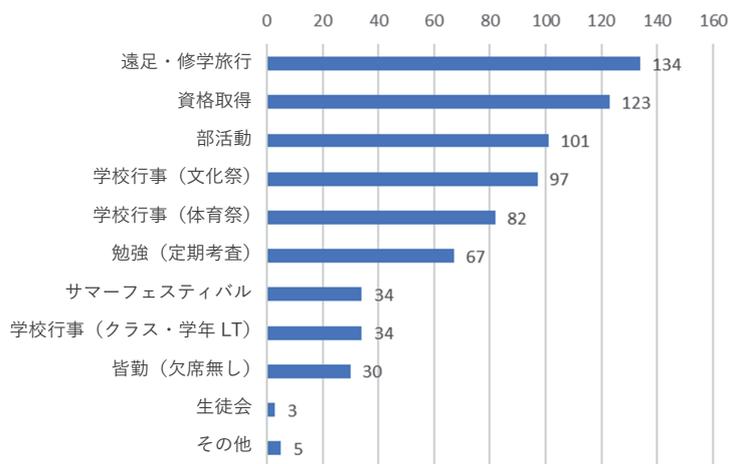
表 3-11 高校生活を通して良い影響を与えたもの（2年生）

計画されている行事等	令和3年度2年生	令和4年度2年生
遠足・修学旅行	—	※134
資格取得	133	123
学校行事(文化祭)	130	97
学校行事(体育祭)	125	82
部活動	111	101
サマーフェスティバル	73	34
勉強(定期考査)	68	67
皆勤(欠席なし)	35	30
学校行事(クラス・LT)	30	34
生徒会	2	3
その他	0	5

※令和4年度より追加した項目である



(a) 令和3年度 2年生



(b) 令和4年度 2年生

図 3-7 高校生活を通して良い影響を与えたもの（2年生）

(4) 授業で学んだことに対する評価（1年生・2年生）

昨年度と同様に、1年生と2年生に対して授業で学んだことに対する自己評価（表3-12、表3-13）を行なった。各教科・科目の授業で学んだこと、成長できたことを評価1～4で一番近いものを選択できるような回答を求めた。評価1は、各教科・科目に対してあまり興味もてず何を学んだのかよくわからなかった、評価2は、積極的には取り組めなかったが、テストに向けて努力した、評価3は、積極的に取り組み、自分の成長を感じた、評価4は、大いに興味をもち、次の学年（1年であれば2年、2年であれば3年をさす）でより深く学びたくなった、という4段階とした。この基準に従うと、項目内容は評価点に置き換え可能なアンケートになり、最高点が4点、最低点が1点、平均値は2.5点となる。令和4年度1年生で評価点が一番高かったのは、専門科目・情報処理であり、大いに興味をもち、次の学年（2年）でより深く学びたくなった、積極的には取り組み、自分の成長を感じた、の項目を選択した生徒は、全体の77.3%（235名）であり、評価平均値は3.0点であった。令和4年度2年生で評価平均値が最も高かったのは、専門科目・課題研究（総合ビジネス科）であり、大いに興味をもち、次の学年（3年）でより深く学びたくなった、積極的には取り組み、自分の成長を感じた、の項目を選択した生徒は、全体の80.0%（24名）であり、評価平均値は3.1点であった。

表3-12 授業で学んだことに対する自己評価（1年生）

(a) 令和3年度 1年生

科目	評価				評価平均値
	1	2	3	4	
国語総合	25	119	89	20	2.4
現代社会	14	134	80	25	2.5
数学Ⅰ	18	106	112	17	2.5
体育	14	70	124	45	2.8
保健	15	140	89	9	2.4
音楽・美術・書道	24	74	122	32	2.6
コミュニケーション英語	17	110	96	30	2.6
ビジネス基礎	14	95	114	30	2.6
簿記	2	66	124	61	3.0
情報処理	7	73	124	49	2.9

(b) 令和4年度 1年生

科目	評価				評価平均値
	1	2	3	4	
現代の国語	8	132	138	27	2.6
言語文化	12	135	126	31	2.6
公共	17	153	119	13	2.4
数学Ⅰ	13	133	130	28	2.6
体育	10	80	151	60	2.9
保健	21	173	101	8	2.3
音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	22	106	130	44	2.6
英語コミュニケーションⅠ	19	139	107	37	2.5
ビジネス基礎	13	93	152	46	2.8
簿記	11	83	143	68	2.9
情報処理	5	64	170	65	3.0
岡崎学	64	127	97	15	2.2

◇令和4年度より募集生徒数は320名（8クラス）に増加している。

▼令和4年度より新学習指導要領に対応している（平成30年告示）。

表 3-13 授業で学んだことに対する自己評価（2年生）

(a) 令和3年度 2年生

科目	評価				評価平均値
	1	2	3	4	
現代文B	15	153	83	7	2.3
世界史	19	152	73	14	2.3
数学A	21	123	102	11	2.4
科学と人間生活	24	147	79	7	2.3
体育	9	74	129	44	2.8
保健	12	160	83	3	2.3
コミュニケーション英語Ⅱ	12	146	86	14	2.4
英語会話	12	91	121	32	2.7
家庭総合	6	103	128	20	2.6
総合ビジネス科					
課題研究	3	10	16	6	2.7
マーケティング	2	18	13	2	2.4
財務会計Ⅰ	2	11	20	1	2.6
原価計算	2	13	19	1	2.5
国際ビジネス科					
ビジネス実務	3	33	32	7	2.6
財務会計Ⅰ	1	20	34	20	3.0
原価計算	1	20	39	15	2.9
情報会計科					
財務会計Ⅰ	0	20	39	12	2.9
原価計算	0	15	40	16	3.0
ビジネス情報	2	32	30	7	2.6
情報処理科					
ビジネス情報	5	35	27	12	2.6
プログラミング	6	33	27	12	2.6
IT概論	4	36	29	10	2.6

(b) 令和4年度 2年生

科目	評価				評価平均値
	1	2	3	4	
現代文B	10	104	113	18	2.6
世界史	18	94	99	34	2.6
数学A	8	101	116	20	2.6
科学と人間生活	22	115	86	22	2.4
体育	5	69	120	51	2.9
保健	9	112	106	17	2.5
コミュニケーション英語Ⅱ	18	120	83	24	2.5
英語会話	3	88	111	43	2.8
家庭総合	6	83	116	40	2.8
総合ビジネス科					
課題研究	0	6	14	10	3.1
マーケティング	1	8	15	6	2.9
財務会計Ⅰ	0	10	16	4	2.8
原価計算	2	8	16	4	2.7
国際ビジネス科					
ビジネス実務	8	24	32	13	2.6
財務会計Ⅰ	5	29	28	15	2.7
原価計算	2	19	42	14	2.9
情報会計科					
財務会計Ⅰ	2	11	39	14	3.0
原価計算	2	13	39	12	2.9
ビジネス情報	4	25	30	7	2.6
情報処理科					
ビジネス情報	3	24	34	11	2.7
プログラミング	2	21	34	15	2.9
IT概論	1	22	36	13	2.8

(5) 2022 岡商グランドデザインの目標達成状況（1年生・2年生）

表3-14と表3-15は、グランドデザインの目標達成状況を目標項目別にまとめた。この目標は社会に必要とされる要素の16の項目について、生徒が日々の実践に合わせて評価1~4の段階評価を行った結果である。それぞれの項目に対して、評価1は、努力不足であり身に付いていない、評価2は、時々実践しているがまだ不十分、評価3は、時々実践し、少し身に付いたと感じる、評価4は、日頃から実践し、身に付いたと感じる、の4段階での評価を求めた。この基準に従うと項目内容は評価点に置き換え可能なアンケートになり、最高点が4点、最低点が1点、平均値は2.5点となる。令和4年度1年生で最も評価平均値が高かったのは、感謝の心であり、日頃から実践し、身に付いたと感じる、時々実践し、少し身に付いたと感じるという生徒は、全体の94.1%（287名）で、評価平均値は3.6点であり、多くの生徒が意識して実践していることが分かる。次に高い評価であったのは、利他の精神が3.3点であった。一方、読書習慣に対する評価は2.0点であり、昨年に引き続き学校として取り組まなければならない課題であるといえる。令和4年度2年生で最も評価平均値が高かったのは、1年生と同様に感謝の心であり、日頃から実践し、身に付いたと感じる、時々実践し、少し身に付いたと

感じるという生徒は、全体の93.5%（229名）で、評価平均値は3.5点であり、多くの生徒が意識して実践していることが分かる。次に高い評価であったのは、利他の精神と人の話をしっかり聞き受け止める、がそれぞれ3.2点であった。一方、読書習慣に対する評価は2.3点であり、同生徒の1年生平均評価2.0点より上昇したが、読書の大切さを継続的に発信していく必要があるといえる。

表 3-14 グランドデザインの目標達成状況（1年生）

(a) 令和3年度 1年生

目標項目	評価				評価平均値
	1	2	3	4	
利他の精神	3	42	122	85	3.2
感謝の心	3	16	73	161	3.6
チャレンジ精神	21	90	90	51	2.7
基礎学力	25	103	94	31	2.5
専門知識	8	68	107	70	2.9
創意工夫して学習	29	112	82	29	2.4
自分の意見を述べる	40	116	66	31	2.4
人の話をしっかり聞き受け止める	8	40	130	75	3.1
多様性を認め合う	18	68	105	62	2.8
岡商生のかきくけこ	26	113	93	21	2.4
社会人になるための準備	8	65	118	61	2.9
読書習慣	100	82	40	31	2.0
さわやかな挨拶	16	80	89	67	2.8
社会人を意識した身だしなみ	5	62	124	62	3.0
主体的な行動力	8	66	131	48	2.9
地域貢献活動	53	108	74	18	2.2

(b) 令和4年度 1年生

目標項目	評価				評価平均値
	1	2	3	4	
利他の精神	4	30	148	123	3.3
感謝の心	3	15	70	217	3.6
チャレンジ精神	18	117	126	44	2.6
基礎学力	24	125	128	28	2.5
専門知識	13	82	152	58	2.8
創意工夫して学習	26	138	118	23	2.5
自分の意見を述べる	43	127	103	32	2.4
人の話をしっかり聞き受け止める	5	38	158	104	3.2
多様性を認め合う	14	56	156	79	3.0
岡商生のかきくけこ	19	122	142	22	2.5
社会人になるための準備	5	63	181	56	2.9
読書習慣	115	98	56	36	2.0
さわやかな挨拶	14	81	134	76	2.9
社会人を意識した身だしなみ	6	52	165	81	3.1
主体的な行動	8	61	163	72	3.0
地域貢献活動	61	131	90	22	2.2

表 3-15 グランドデザインの目標達成状況（2年生）

(a) 令和3年度 2年生

目標項目	評価	1	2	3	4	評価平均値※
利他の精神		5	56	108	89	3.1(3.1)
感謝の心		4	23	63	170	3.5(3.5)
チャレンジ精神		14	106	97	43	2.7(2.6)
基礎学力		25	130	90	14	2.4(2.6)
専門知識		19	76	119	46	2.7(2.8)
創意工夫して学習		28	124	84	23	2.4(2.5)
自分の意見を述べる		27	102	101	29	2.5(2.4)
人の話をしっかり聞き受け止める		3	47	140	70	3.1(3.1)
多様性を認め合う		13	71	114	62	2.9(2.9)
岡商生のかきくけこ		19	114	100	25	2.5(2.5)
社会人になるための準備		7	71	131	51	2.9(2.8)
読書習慣		109	75	45	29	2.0(1.6)
さわやかな挨拶		13	66	107	73	2.9(2.9)
社会人を意識した身だしなみ		6	61	131	61	3.0(3.0)
主体的な行動力		11	73	126	49	2.8(2.9)
地域貢献活動		61	121	58	19	2.1(2.0)

※（ ）は令和2年度、同生徒が1年生3月時点の評価平均値である。

(b) 令和4年度 2年生

目標項目	評価	1	2	3	4	評価平均値※
利他の精神		3	30	115	97	3.2(3.2)
感謝の心		4	12	79	150	3.5(3.6)
チャレンジ精神		22	60	109	53	2.8(2.7)
基礎学力		14	88	113	29	2.6(2.5)
専門知識		12	62	116	54	2.9(2.9)
創意工夫して学習		17	87	108	33	2.6(2.4)
自分の意見を述べる		26	81	97	41	2.6(2.4)
人の話をしっかり聞き受け止める		5	21	141	78	3.2(3.1)
多様性を認め合う		16	52	115	62	2.9(2.8)
岡商生のかきくけこ		14	74	116	39	2.7(2.4)
社会人になるための準備		7	43	136	59	3.0(2.9)
読書習慣		73	71	67	34	2.3(2.0)
さわやかな挨拶		12	51	111	71	3.0(2.8)
社会人を意識した身だしなみ		5	36	141	63	3.1(3.0)
主体的な行動		11	46	122	66	3.0(2.9)
地域貢献活動		41	84	87	33	2.5(2.2)

※（ ）は令和3年度、同生徒が1年生3月時点の評価平均値である。

(6) 学校に対する評価について (1年生・2年生)

本校に対する評価については、生徒に直接点数を記入する方法 (100点満点) で評価させた。60点を平均点とすると明記した。表3-16の、学校に対する評価 (平均点) の推移の中で示めているように、令和4年度1年生の平均点は70.3点であった。2年生の平均点は66.9点であり、1年前の平均点68.7点と比較するとやや下降した。学校に対する評価は、学校生活を楽しんでいるかどうか、一つのバロメータであると考察する。対象者が異なるため1年生と2年生を直接比較することの妥当性はないが、前述した令和4年度3年生の平均点67.8点も併せて考察すると、多数の生徒は平均点以上の評価を記入していることから、学校生活をおおむね満足している状況であるといえる。

表3-16 学校に対する評価 (平均点) の推移

	1年生	2年生	3年生
令和2年度	67.9	64.9	—
令和3年度	67.8	58.8	67.9
令和4年度	70.3	66.9	67.8

☆ は同一の生徒が回答した経年変化を表す。

4. 考察

4.1 学習指導要領改訂の効果についての考察

2022年入学生より平成30(2018)年に公示された新しい学習指導要領が適用されている。ここではまず、学習指導要領が改訂されたことによる生徒の習熟度について検証を行う。令和3(2021)年入学の1年生および令和4(2022)年入学の1年生に対して、授業で学んで成長できたことについて自己評価を1~4の4段階にてしてもらい、それぞれ科目ごとに集計を行った。なお、今回の学習指導要領改訂により1年生における国語総合は現代の国語、現代社会は公共、コミュニケーション英語は英語コミュニケーションに変更となったほか、新たに言語文化が加わり、また学校設定科目として岡崎学が加わった。表4-1に学習指導要領改訂前と改定後における1年生からみた授業にて成長できた自己評価の比較を示す。こちらは学習指導要領改訂により科目が変わり、単純な比較はできないが、生徒からみた成長度の自己評価を示したものである。

表 4-1 学習指導要領改訂前と改訂後における授業で学んで成長できたことの推移

	令和3年度	令和4年度
国語	2.41	2.51
国語（国語総合）	2.41	
国語（現代の国語）		2.60
国語（言語文化）		2.42
公民	2.46	2.87
公民（現代社会）	2.46	
公民（公共）		2.87
数学（数学Ⅰ）	2.51	2.65
体育	2.79	2.76
保健	2.36	2.97
芸術（音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ）	2.64	2.58
英語	2.55	2.57
英語（コミュニケーション英語Ⅰ）	2.55	
英語（英語コミュニケーションⅠ）		2.57
共通科目平均	2.53	2.70
ビジネス基礎	2.63	2.32
簿記	2.96	2.54
情報処理	2.85	2.88
岡崎学		2.21
商業科目平均	2.82	2.53
総合平均	2.62	2.62

表 4-1 をみると、科目全体の平均値は改訂前と改訂後で変わらないものの、共通科目では 2.53 から 2.70 に増加し、商業科目においては 2.82 から 2.53 に減少した。特に、簿記の 0.42 ほど減少しているが、これは 1 年生における簿記の授業時間数が減少し、例えば日本商工会議所簿記検定に対しての取り組む時期が遅くなったことなどが原因として考えられる。また、ビジネス基礎についても 2.63 から 2.32 に減少しているが、こちらは学習指導要領改訂による内容の高度化や広範囲化が原因として考えられる。今後の指導法の工夫に期待したい。

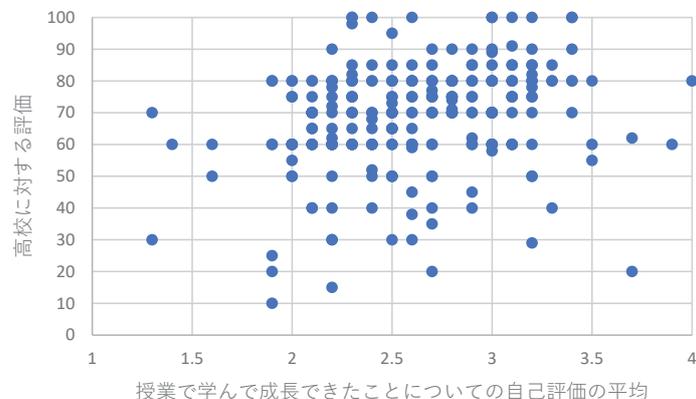
次に、グランドデザインの比較を行う。令和 3（2021）年入学の 1 年生および令和 4（2022）年入学の 1 年生に対して調査した、グランドデザインの達成状況の平均値を表 4-2 に示す。

表 4-2 学習指導要領改訂前と改訂後におけるグランドデザインの達成状況

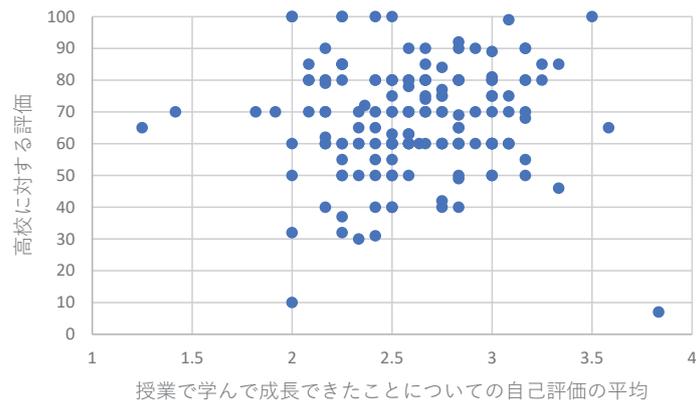
項目	令和3年度	令和4年度
利他の精神	3.15	3.28
感謝の心	3.55	3.64
チャレンジ精神	2.67	2.64
基礎学力	2.52	2.52
専門知識	2.94	2.84
創意工夫	2.43	2.45
自分の意見を述べる	2.35	2.41
人の話をしっかり聞き受け止める	3.08	3.18
多様性を認め合う	2.83	2.98
岡商生のかきくけこ	2.43	2.55
社会人になるための準備（言葉遣い・マナー）	2.91	2.94
読書習慣	2.01	2.04
さわやかな挨拶	2.81	2.89
社会人を意識した身だしなみ	2.96	3.06
主体的な行動力	2.87	2.98
地域との協力	2.23	2.24
平均	2.73	2.79

表 4-2 を見ると、16 項目中 13 項目においてグランドデザイン達成状況に増加の傾向が見られた。また、全体の平均も 0.06 ほど増加している。令和 2（2020）年度に中学校において学習指導要領が改訂され、令和 4 年度入学生は中学 2 年時より新しい学習指導要領が適用されていること、高等学校においても入学時より学習指導要領が改訂されたことなどでグランドデザイン達成状況が増加したとも考えられるが、今後の推移についても十分に検証していく必要がある。

次に、授業で学んだことに対する自己評価と高等学校に対する評価、および授業で学んだことに対する自己評価とグランドデザインとの関係について考察する。令和 3（2021）年入学の 1 年生および令和 4（2022）年入学の 1 年生に対して調査した、授業で学んだことに対する自己評価と高等学校に対する評価についての分布を図 4-1 に示す。



(a) 令和 3 年度

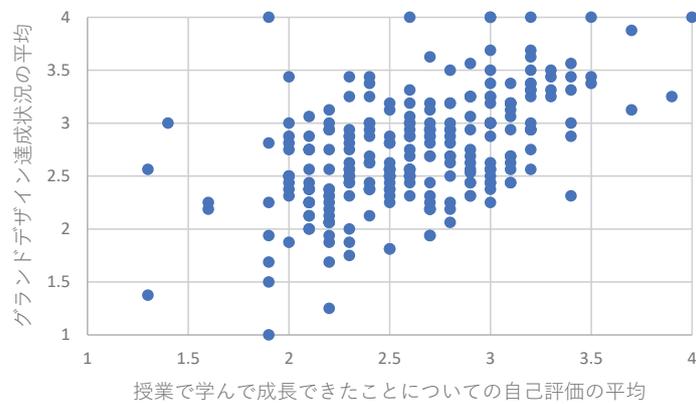


(b) 令和4年度

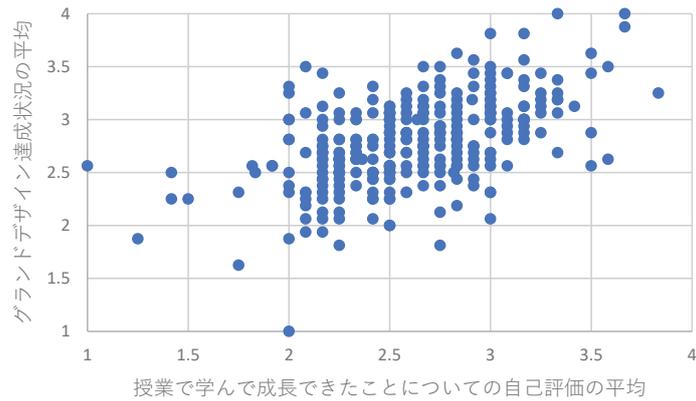
図 4-1 授業で学んだことの自己評価と高等学校に対する評価の関係

図 4-1 からわかるように、授業で学んだことの自己評価の平均と高等学校に対するの評価について、学習指導要領改訂前と改訂後いずれも深い相関は見られなかった。しかしながら、学習指導要領改訂後においては改訂前と比較して小さな分散に変化していることも確認できる。学習指導要領の改訂によるものとも考えることもできるが、今後も調査を進めたうえで考察していく必要がある。

次に、令和 3（2021）年入学の 1 年生および令和 4（2022）年入学の 1 年生に対して調査した、授業で学んだことに対する自己評価とグランドデザイン達成状況の平均値についての分布を図 4-2 に示す。



(a) 令和3年度

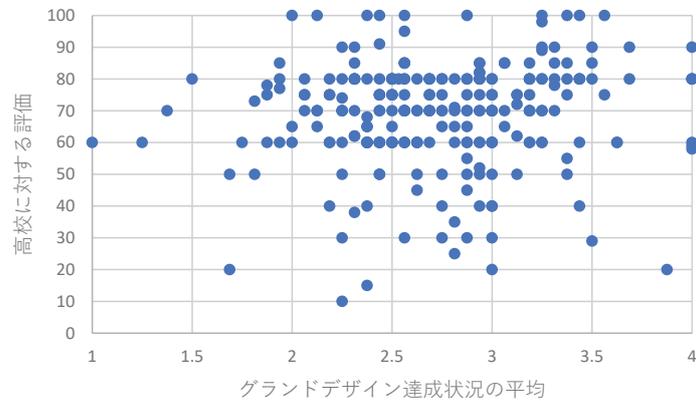


(b) 令和4年度

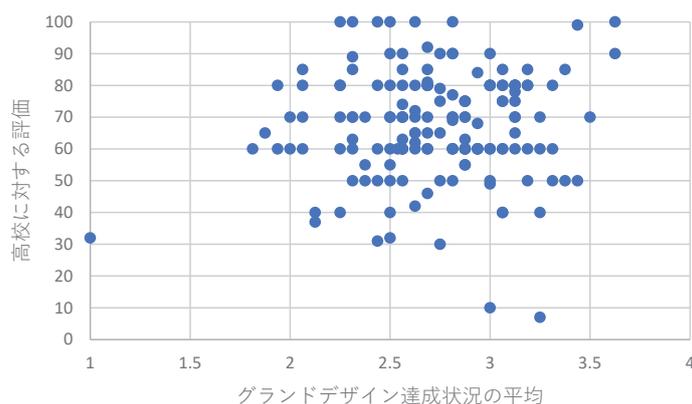
図4-2 授業で学んだことの自己評価とグランドデザイン達成状況の関係

図4-2をみると、授業で学んだことの自己評価の平均とそれぞれの生徒から見たグランドデザイン達成状況の平均について学習指導要領改訂前と改訂後いずれも一定の相関が確認できる。また、学習指導要領改訂後においては図4-1同様に小さな分散に変化していることもわかる。こちらも、学習指導要領改訂の影響によるものかどうかも含めて、引き続き考察を進めていく必要がある。

次に、令和3（2021）年入学の1年生および令和4（2022）年入学の1年生に対して調査した、グランドデザイン達成状況の平均値と高等学校に対する評価についての分布を図4-3に示す。



(a) 令和3年度



(b) 令和4年度

図 4-3 グランドデザイン達成状況と高等学校に対する評価の関係

図 4-3 をみると、グランドデザイン達成状況の平均と高等学校についての平均について、相関は見られないものの、学習指導要領改訂後においては図 4-1、図 4-2 同様に全体的には小さな分散に変化していることがわかる。

4. 2 時系列でみた考察

本研究にて授業で学んで成長できたことやグランドデザインの達成状況の調査を開始して3年が経過した。このことは、高校入学から卒業までの3年間の時系列データを取得できたことを意味する。そこで、高校3年間におけるグランドデザイン達成状況の推移について考察を行う。

令和4年度（2022）年度卒業生にとってのグランドデザインの達成状況の3年間にわたる推移を表 4-3 および図 4-4 に示す。図 4-4 におけるカッコ内の数字は表 4-3 における項目番号である。

表 4-3 令和4年度卒業生にとってのグランドデザイン達成状況の推移

項目	1年終了時	2年終了時	3年終了時
(1) 利他の精神	3.09	3.09	3.34
(2) 感謝の心	3.52	3.53	3.62
(3) チャレンジ精神	2.61	2.65	2.87
(4) 基礎学力	2.60	2.36	2.57
(5) 専門知識	2.80	2.74	2.98
(6) 創意工夫	2.46	2.39	2.67
(7) 自分の意見を述べる	2.36	2.51	2.75
(8) 人の話をしっかり聞き受け止める	3.10	3.07	3.28
(9) 多様性を認め合う	2.93	2.87	3.16
(10) 岡商生のかきくけこ	2.46	2.51	2.76
(11) 社会人になるための準備（言葉遣い・マナー）	2.83	2.87	3.13
(12) 読書習慣	1.62	1.98	2.09
(13) さわやかな挨拶	2.92	2.93	3.15
(14) 社会人を意識した身だしなみ	3.03	2.95	3.15
(15) 主体的な行動力	2.88	2.82	2.97
(16) 地域との協力	2.01	2.14	2.31
グランドデザイン全体（平均）	2.70	2.71	2.92

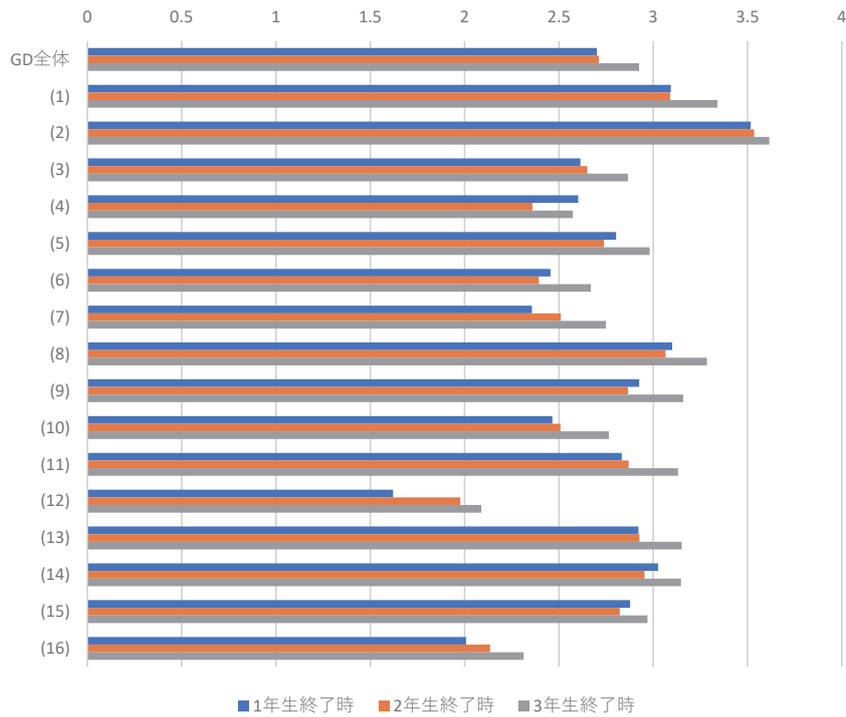
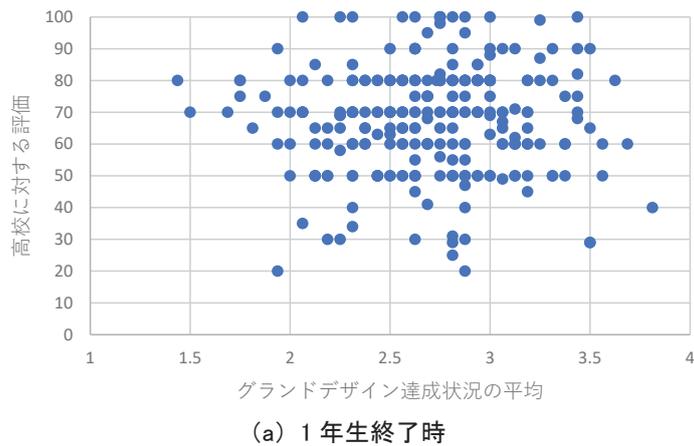
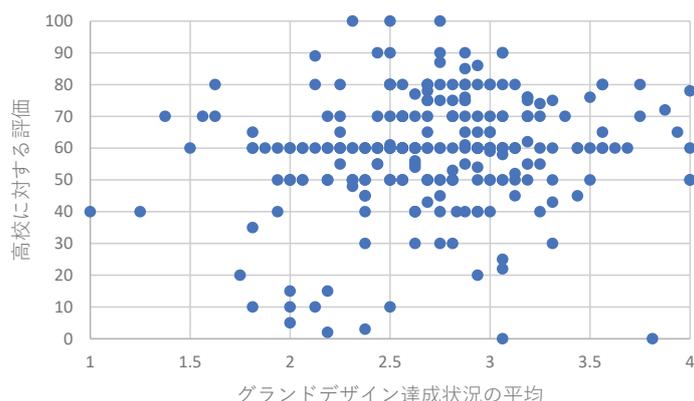


図 4-4 令和 4 年度卒業生にとってのグランドデザイン達成状況の推移

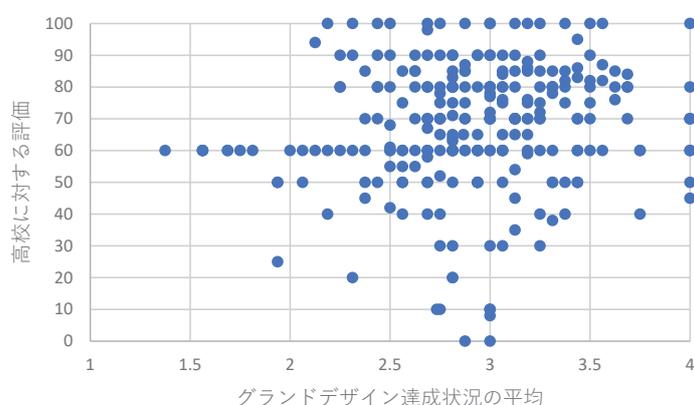
表 4-3 および図 4-4 をみると、1 年生から 2 年生にかけては全体的に現状維持または減少の傾向にある。これは、2 年生では 1 年生に比べモチベーションの低下など減少の原因は考えられるが、3 年生の結果をみると、卒業後が近く、進学または就職することに対する意識が高まったことなども理由としては考えられる。

次に、令和 4 年度（2022）年度卒業生にとってのグランドデザインの達成状況と高等学校に対する評価との関係についての 3 年間にわたる推移を図 4-5 に示す。





(b) 2年生終了時



(c) 3年生終了時

図 4-5 令和 4 年度卒業生にとってのグランドデザイン達成状況と
高校に対する評価の分布の推移

図 4-5 をみると、グランドデザイン達成状況の平均値と高等学校に対する評価について大きな相関は確認できないものの、3年生終了時になると全体的に右上に分布していることがわかる。3年生終了時にグランドデザイン達成状況と高等学校に対する評価いずれも全体的に高く感じているということが読み取れる。

5. 今後に向けた課題

2023（令和 5）年の入学生より新学習指導要領に則ったカリキュラムが始まる。教科指導では、主体的・対話的で深い学びになるような授業の工夫が必要となる。学校全体の構想図を表 5-1 にある 2023 岡商グランドデザインとして掲げた。本校は令和 4 年 120 周年を迎え、長い歴史と伝統のある学校で学んでいることを生徒が誇りに思える学校づくりを行ってきた。令和 5 年は 121 年目を迎え、SDGs への取組、西三河を繋げる商品開発、あいちラーニング推進事業（R4.5）、金融教育研究校（R4.5）、ビジネス探究プログラム（R5～7）すべての教科・科目で外部連携（地域連携）を計画し、実施するなど一歩前進することを学校全体に投げかけた。

具体的には、各先生が一つ以上の企業や地域団体と連携し、各教科・科目の学びを広げたり、深めたりする授業を実践することを目標に掲げた。また、年次進行で新学習指導要領に則った科目内容の理解に努め、新しい授業方法を取り入れたたり、改善したりすることで、生徒たちが楽しい、面白いと感じる授業の醸成に期待している。

表 5-1 岡高グランドデザイン 2023

岡高生が身につけたい「か・き・く・け・こ」 かんどま→きょうみー→くろ→けつたん→こうどう→きんごう→きんごう→サイクルを身に付けよう		2023 岡商 GRAND DESIGN たのしみ！岡商バージョンアップ大作戦！！		
何 が で き る よ う に な る か い	育てたい生徒像	身につけたい資質・能力		
	即戦力となる社会人を育成する	人間力	適応力	
	岡商モットー 「土魂商才」 武士の精神（自分自身と向き合う強さ） 商人の知恵（利他の精神） を兼ね備えた人材の育成	・利他の精神 ・感謝の心 ・チャレンジ精神	・基礎学力 ・専門知識 ・創意工夫	学びの姿勢 「なりたい」を創造し「なれる」を具現する教育の実践 ・基礎学力の向上（個別最適な学びによる学習習慣の定着） ・主体的に学び、ホンモノを学ぶ（学習とリアルを結び付ける）
	学年目標	コミュニケーション能力 ・多様性を認め合える ・他人の話をしっかり聞き受け止める ・自分の意見を述べるができる	商業（総合ビジネス・国際ビジネス・情報処理・情報会計） 1 習熟度別授業、Team Teachingによる、確実な知識、技術の習得 2 積み重ねた知識、技術を活用できる課題解決能力の育成 3 地域連携、校外学習、グループワーク等、生徒主体型の授業展開	
	1年 Discover	2年 KIRATTO	3年 感謝の心	国語 社会に通用する豊かな表現力・語 彙力・共感力・自己発信力をもつ 人材の育成
	学年で一貫した取組		進路指導	英語 自然の事物・現象についての理解 を深め、科学的な思考力を養い、 問題解決能力を高める。
	1年 基礎学力の定着を図り、自ら考え、行動できる生徒の育成 ・基礎学力の定着を図り、粘り強く学び続ける態度の育成 ・自ら考えて行動し、規律ある高校生活が送れる力を養う ・仲間の良さを発見し、お互いを尊重しながら高め合う能力の育成	1年 自己を知る・人間関係を築く 「自己理解」「情報収集」	保健 自分自身の健康について主体的に 考え、意欲的に行動できる能力の 育成	数学 問題演習を通して、柔軟な思考力 や発想力を養い、筋道を立てて正 しく考える力を育成
	2年 自他ともに認めあい高めあう環境づくり ・自他の理解を深め、仲間と協力し合う望ましい人間関係形成 ・専門的な知識・技術の習得及び選択科目による主体的な学び ・進路選択に向け主体的にキャリアを形成する自己分析の充実	2年 自己を磨く・職業や社会を知る 「自己分析」「情報蓄積」	家庭 人の一生と生活全般に関する知 識、技術の育成	芸術 自分の意図に基づいて、表現 するための技能を身に付ける 生進を通して芸術を愛好する 心情を育み、感性を高める
	3年 新成人・社会人になるための準備 ・主体的な進路選択・進路実現のサポート ・成人としての責任の自覚と主体的で自立した行動の促進 ・基礎学力の充実、検定取得、社会への関心の育成	3年 社会での自分の役割を知る 「自己表現」「情報選択」	読書習慣・活字に慣れる 図書館廻りを通じての情報発信、授業での読書指導等を通じて読書習慣を身に付けさせ、自ら考えるこ とができるよう育成	体育 実技や知識習得を通して、各種目 の技能・特性・知識を理解し、生 進を通して主体的に運動に参加す る姿勢の育成
	進路教育 特別活動 新時代に対応した新しいかたちの行事づくり 清掃活動 学校の施設・設備を大切に使う意識をもち、主体的かつ積極的に清掃活動に取り組み 相談活動 自らと向き合って自己理解をはかるとともに、他者との違いを認め、他者を思いやる 心をもつ	組織的な生徒指導 自立に向かう高校生らしい生活態度と、自律精神の育成、基本的な生活習慣の定着 多様性と規範・規律の調和を体現し、社会の一員として適切な行動ができる態度の育成	連携機関 岡崎女子大学短期大学、名古屋産業大学、武蔵野大学、高崎医科大学、青達科技大学（台湾） PTA ・PTA総会、PTA通信の発行、同窓会への協力依頼 同窓会 ・同窓会総会の開催、グローバル人材育成事業への協力 地域 ・学校評議員の委嘱、行事等の協力依頼、SDGsを意識した地域活動	
部活動 長所をみつける・磨く部活動 バレーボール（女）・ハンドボール（女）・硬式野球・卓球（女）・サッカー（女） フープロ・情報処理・商業美術・電卓・簿記・家庭・OKASHOP・ダンス・ボランティア	運動部 ソフトテニス（男女）・弓道（男女）・新体操（女）・陸上競技（男女）・ソフトボール（女）・バスケットボール（男女） 文化部 音楽・吹奏楽・演劇・新聞・茶道・国際交流			
新たな挑戦へ！ SDGsへの取組、西三河を繋げる商品開発、あいちラーニング推進事業（R4.5）、金融教育研究校（R4.5）、ビジネス探究プログラム（R5～7） すべての教科・科目で外部連携（地域連携）を計画・実施。すべての先生が一つ以上の企業や地域団体と連携し、各教科・科目の学びを広げたり、深めたりする授業を実践				

6. おわりに

本論文では、ビジネス教育を発展させるためのグランドデザイン（学校教育全体構想図）を愛知県立岡崎商業高等学校にて構築し、その成果を評価するための全校生徒を対象としたアンケート調査を令和2（2020）年度、令和3（2021）年度、令和4（2022）年度にも行うことで、令和2年度入学生の卒業までの3年間の時系列でのグランドデザイン達成度や習熟度などについて検証を行うことができた。また、1年次のみであるが新しい学習指導要領のもとで行われた教育の効果やグランドデザインの関連についても検証を行うことができた。

今後は、グランドデザイン設定2年目に入学した生徒の卒業までの時系列でのデータを検証するとともに、新しい学習指導要領における2年次科目までの効果についても考察を進めていく予定である。

なお、本研究の一部は愛知学院大学ビジネス科学研究所令和5年度共同研究プロジェクト

によるものである。また、アンケート調査にあたっては愛知県立岡崎商業高等学校小川浩司校長および同校教職員と在校生にご協力いただいた。データの作成や分析にあたっては吉田光紗さん（本学商学部吉田ゼミ卒業生・現在愛知県立岡崎商業高等学校勤務）、平野蒼さん（本学卒業生・現在愛知県立岡崎商業高等学校勤務）、川名賢生さん（愛知県立岡崎商業高等学校卒業・現在本学商学部吉田ゼミ2年生）にご協力いただいた。ここに感謝申し上げる次第である。